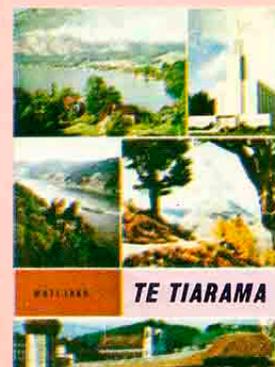
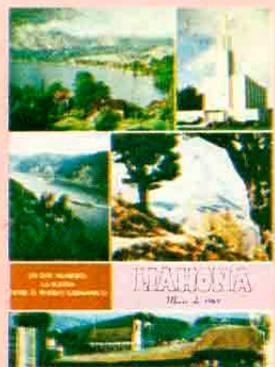


聖徒の道 1970 1





心の糧

副管長

ジョセフ フィールディング スミス

人は罪を犯す時、その罪から逃れるために、定められた律法に従わねばならない。アダムはサタンにいざなわれ、その誘惑に応じた。その罪により、アダムは霊の死をうけた。すなわち主の御前から断ち切られたのである。

神の御前に再び立ち帰る方法はただ一つあった。それは霊的死の状態から、霊的に生きる状態へと変る、霊的再生によるものである。

主はアダムに天使を送られ、アダムが天父の御前に立ち帰ることのできる贖いの計画をお知らせになった。またこの計画の中で贖い主、イエス・キリストの使命が明らかにされた。そこで主はすべての人々に、信仰、悔い改め、水のバプテスマ、聖霊の賜により霊的再生をお与えになってきた。それによって帰る意志のあるものはことごとく神の御前に帰ることが可能なのである。この死すべき状態はアダムのすべての子孫に受けつがれてきた。自ら責任をとれる年令に達するすべての者は、福音の原則に忠実に従うことによってこの霊的死から贖われないかぎり、神の御前から断ち切られている。すなわち霊的死を受けているのである。

— も く じ —

予言者のことば

世界の我が教会.....	大管長デビッド O. マッケイ.....	1
教会は世界共通機関誌により全世界にメッセージを送っている編集長 ドイル L. グリーン.....	3
目標の設定とその達成方法.....	マーク E. ピーターセン長老.....	7
私たちはキリストの栄光を待ち望んでいる.....	H. ドンル ピーターソン.....	10
正しい理由に基づく正しい行動.....	エルドン H. パケット.....	13
十分の一の律法.....	リブランド リチャーズ長老.....	16
管理監督会のページ		
断 食.....	ジョン H. バンデンバーグ.....	19
やましい心をいやす.....	リチャード L. エバンズ.....	20
主は、わたしを正しい道に導かれる.....	ケネス W. ゴッドフリー.....	21
わたしがきたのは羊に命を得させるためであるリード H. ブラッドフォード.....	24
伝道部長会メッセージ.....		27
ローカル・ニュース.....		28
清い両親であれ.....	リチャード L. エバンズ.....	裏表紙

子供のページ

純金のかね.....	H. トレア モリス.....	1
------------	-----------------	---

今月の表紙

今月は最近の教会の世界共通機関誌（ユニファイド・マガジン）の表紙を集めたものである。それは17カ国語の地域において教会員に購読される36ページの月刊誌に用いられている名称である。これはエラ誌3月号の表紙にも用いられた。

本誌の記事の選択、レイアウト、デザイン、絵、写真、表紙はすべて教会本部で決められ、出版されることから、世界共通機関誌という言葉が与えられた。記事の選択から17カ国語の印刷完了まで、数多くの作業と労苦を経て約4カ月が費やされる。たとえば、ある言語では、同一の内容でも英語の割増しの2ページを占める。従って各誌の記事のデザインと割つけとは、この点に十分な考慮を払わなければならない。記事の選択においてさえ、数々の問題がある。教会のすべての地域に神殿や宗教講座があるわけではなく、あらゆる事柄について必ずしも同じ考え、習慣があるとは限らないので、記事は、すべての末日聖徒に共通に必要なことや、各言語グループの必要に合わせて選択されねばならない。



<予言者のことば>

世界の我が教会

十七カ国語のメッセージ

Vår Verdensomspennende Kirke

Av president David O. McKay

Gud velsigne Kirken. Den er verdensomspennende og dens innflydelse skulle bli følt av alle nasjoner. Måtte hans ånd influere menneskene overalt og vende deres hjerter mot forståelse og fred.

Vår Världsomfattande Kyrka

Av president David O. McKay

Må Gud välsigna kyrkan. Den sträcker sig över hela jorden och dess inflytande borde kännas av alla länder. Må hans ande utgjutas över människor överallt och vända deras hjärtan mot fred och god vilja.

Nossa Igreja Mundial

Pelo Presidente David O. McKay

Que Deus abençoe a Igreja. É mundial, e sua influência deve tocar tôdas as nações. Que Seu espírito possa influenciar a humanidade e inclinar seus corações à paz e boa vontade.

Onze Wereldomvattende Kerk

Door president David O. McKay

God zegene de Kerk. Zij is wereldomspannend en haar invloed moet wel door alle naties gevoeld worden. Moge Gods Geest het ganse mensdom beïnvloeden en hun hart richten tot vrede en in de mensen een welbehagen.

我們普世的教會
由麥基奧大衛會長

神祝福我們的教會。它是普遍全世界，各民族應感受其影响。願祂的靈影响各地人民，使他們的心倾向友善及平安。

La Nostra Chiesa Mondiale

di Presidente David O. McKay

Dio benedica la Chiesa. E'una Chiesa conosciuta in tutto il mondo e la sua influenza dovrà essere sentita in tutte le nazioni. Che il suo spirito abbia influenza negli uomini ovunque e incline i loro cuori verso la buona volontà e la pace.

Our Worldwide Church

By President David O. McKay

God bless the Church. It is worldwide, and its influence should be felt by all nations. May his spirit influence men everywhere and incline their hearts toward goodwill and peace.

Unsere Weltumspannende Kirche

von Präsident David O. McKay

Gott segne die Kirche. Sie umspannt die ganze Welt und alle Länder sollen ihren Einfluß spüren. Möge Sein Geist alle Menschen beeinflussen, damit sie guten Willens und friedlich gesinnt sind.

Notre Eglise Universelle

par le président David O. McKay

Dieu bénisse l'Eglise! Elle est universelle et toutes les nations devraient subir son influence. Puisse Son esprit influencer sur tous les hommes et incliner leur coeur vers la bonne volonté et la paix!

世界の我が教会

大管長 デビッド O. マッケイ

教会に祝福あれ。主の祝福があらゆる国民にあまねく及び、主の「みたま」の力により人々の心が善意と平安で満たされんことを。

Maailmanlaajuinen kirkkomme

Presidentti David O. McKay

Jumala siunatkoon kirkkoa. Se on maailmanlaajuinen ja kaikkien kansakuntien tulisi tuntea sen vaikutus. Koskettakoon Hänen Henkensä ihmisiä kaikkialla ja vaikuttakoon heidän sydämiinsä niin, että vallitsisi rauha ja hyvä tahto.

Our Worldwide Church

By President David O. McKay

God bless the Church. It is worldwide, and its influence should be felt by all nations. May his spirit influence men everywhere and incline their hearts toward goodwill and peace.

O Lā Tatou Ekalesia I Le Lalolagi Atoa

Tautalagia e Peresitene David O. McKay

Ia fa'amanuia e le Atua le Ekalesia. Ua i ai nei i le lalolagi atoa ma e tata ai ona lagonaina e atunu'u uma lona aogā. Ia musuia e Lona Agaga tagata uma i so'o se atunu'u ma fa'a'ua'i atu o latou loto i le alofa ma le filemū.

Hotau Siasi Faka'Univeesi

Fai 'e Palesiteni David O. McKay

'Ofa ke tāpuekina 'e he 'Otua 'a e Siasi. Kuo hoko ia ko ha siasi faka'univeesi, pea 'e onгона 'a hono onго 'e he ngaahi pule'anga kotoa pe. 'Ofa ke fakaue'i 'e Hono laumalie 'a e kakai 'i he potu kotoa pe, pea ke takiekina honau loto ki he loto 'ofa mo e melino.

Ta Tatou Ekalesia i Te Ao Taatoa Nei

Na te Peresideni David O. McKay

Ia haamaitahia te Ekalesia e te Atua. Tei roto te Ekalesia i te ao taatoa nei e to'na mana e mea tia ia i te faariihia e te mau nunaa atoa. Na te varua o te Atua e faauru i te mau taata i te mau vahi atoa e, e faafariu i to ratou mau aau i roto i te hinaaro maitai e te hau.

우리들의 세계적 교회

데비드 오. 맥케이 대인장

하나님은 교회를 축복 하십니다. 그것은 전세계적인 것이며 모든 나라가 다 그 영감을 얻어야 할 것입니다. 하나님의 영이 모든 곳에 살고 있는 사람들을 감화 하시며 선과 화평으로 그들의 마음을 인도 하시기를 바랍니다.

Vor Verdensomspændende Kirke

Af Præsident David O. McKay

Gud velsigne Kirken. Den er verdensomspændende, og dens indflydelse burde føles af alle nationer. Må Hans ånd øve indflydelse på mennesker overalt i verden og forlene deres hjerter med trangen til at vise god vilje og skabe fred.

Nuestra Iglesia Es Mundial

Por el Presidente David O. McKay

Dios bendiga la Iglesia. Está en todo el mundo y su influencia se debe sentir en todas las naciones. Que su Espíritu ilumine a los hombres en todas partes y conduzca sus corazones hacia la paz y buena voluntad.

教会は

世界共通機関誌

により全世界にメッセージを送っている

教会編集部編集長 ドイル L. グリーン

8月の初旬、南部極東伝道部の教会員達は大きさ28×21センチメートルの月間誌を受け取った。表紙は美しいカラーで、ノアが人々に迫り来る洪水を警告している絵である。中国でこの雑誌名は、聖徒之声と呼ばれている。

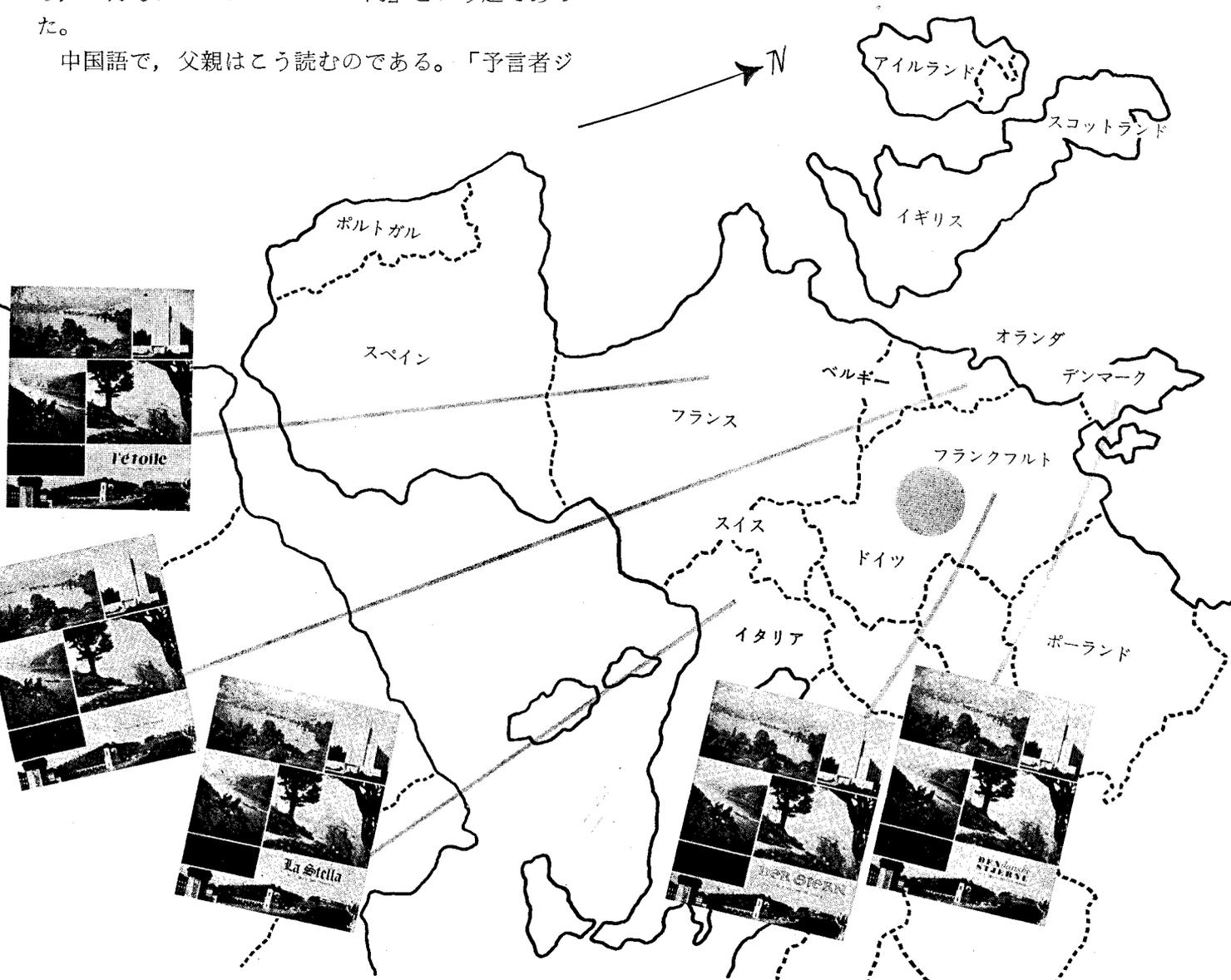
雑誌を受け取ると、父親達は家族を集め、表紙について語り合い、そして一ページの目次を見、主の予言者デビッド O. マッケイ大管長からのメッセージを読むのである。メッセージは毎月載せられており、8月号は「バプテスマの門」という題であった。

中国語で、父親はこう読むのである。「予言者ジ

ョセフ・スミスは次のように述べた。『バプテスマは神に対するしるし（サイン）である。……人が神の御許に救われ、神の王国に入るために神が定めたもうた方法は、イエス・キリストを信ずる信仰、悔い改め、罪の赦しを得るためのバプテスマだけであって、天にも地にもその他の道は無効である。バプテスマの後に、聖霊の賜が約束される。』（予言者ジョセフ・スミスの教え）

バプテスマは、福音の第一原則と儀式の一つである。」（8月号より）

マッケイ大管長の言葉を読み終えると、家族はこの大切なメッセージの意味を話し合うのである。そして、次々とページを繰り、家族全員に価値があり関心と呼ぶ記事に出会う。たとえば十二使徒評議員会のリチャード L. エバンズ長老による、「最も実践し難い教え」、十二使徒評議員会補助のセオドア M. バートン長老による「心の糧」、ジョン H.



バンデンバーグ管理監督による「什分の 一について」等。

子供達は、十二使徒評議員会全員の肖像画と説教の載っている四ページの記事を見つけた。また特別読物として、二人の青年が他人の利益よりも誠実さを取った記事「人物評価」があり、続いて、「おとな一学ぶべき人々」、「改めたい母親の習慣」、「レッスンの準備」、「報いある健康の法則」、「友はMIAでできる」、「権能ですって？何をする権能ですか」、「人々の悪しきくわだて」がある。終りのページには、南部極東伝道部の教会や教会員に関し、興味のあるまた大切な記事が載っている。聖徒之声は、毎月約千冊が発送されている。

同じ頃、国語で分類した世界中の十六地域の教会員は、自国語に翻訳されてはいるが同じ表紙、レイアウト、写真、記事、特集の雑誌を受け取った。違いと言えばローカル版の五ページだけである。

英語以外の言葉を話す教会の人々のために共通機関誌をというアイディアは、十二使徒評議員のワード W. ハンター長老が1966年ヨーロッパ伝道部を監督していた頃の発想である。

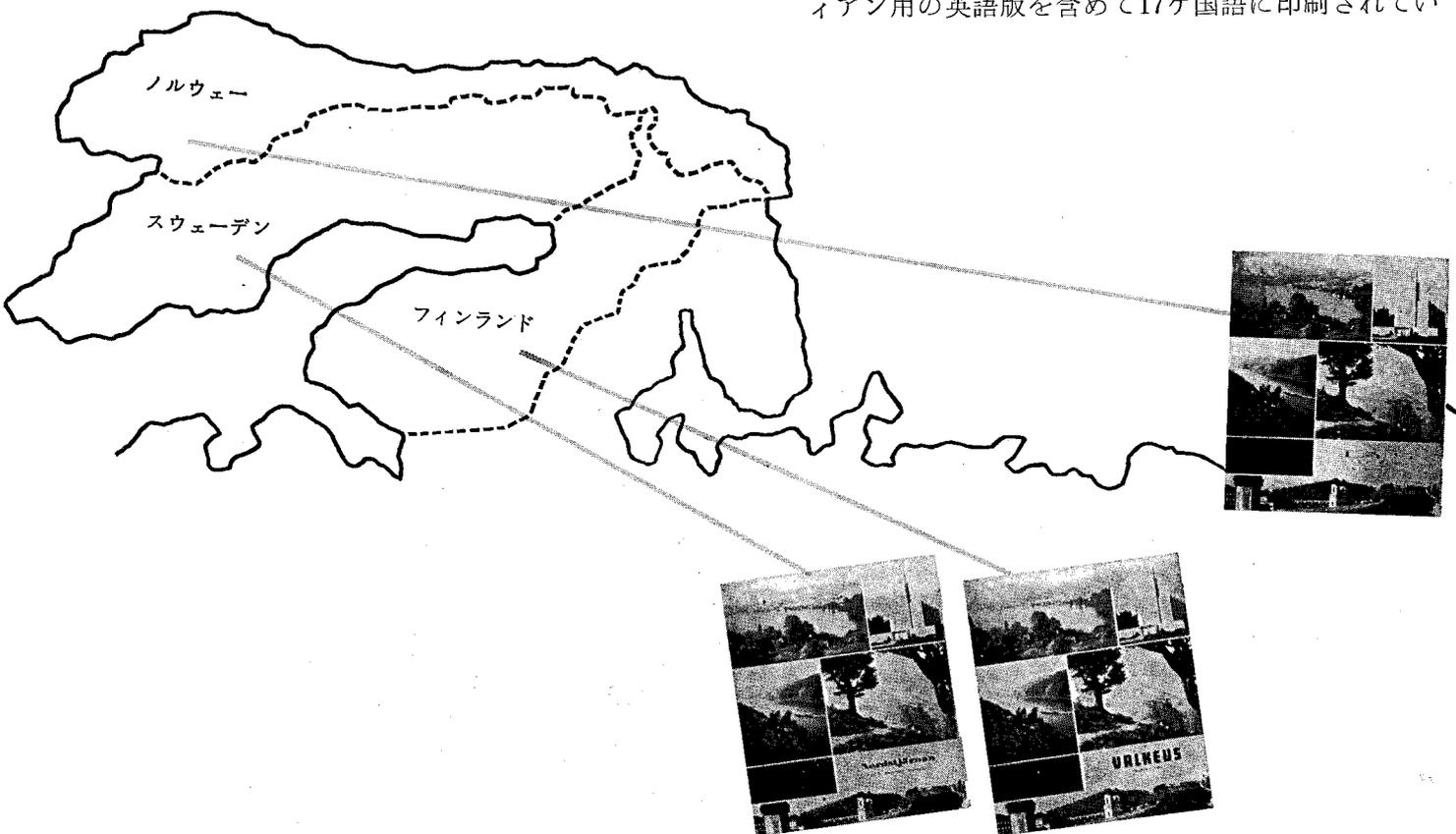
伝道部を次から次へと旅し、伝道部役員達の働き

を見た時、ハンター長老は、伝道部機関誌を編集するために伝道部長や宣教師が非常な時間をさいており、また、機関誌は伝道部により質、内容ともまちまちであることに気がついた。そこで、宣教師の時間、費用を節約し、同時に質の向上を図り、機関誌を統一し、調整する働きかけに移った。

ハンター長老は、教会の翻訳、配送の監督者である。ジョン H. バンデンバーグ管理監督とビクター L. ブラウン副監監の援助を得て問題解決にあたった。この計画を推進するにあたり、当時J. トーマス・ファイアン兄弟、現在はジョン E. カー兄弟監督の翻訳、配送部の多大な協力があった。

研究を重ねた結果、インプルーヴメントエラ、インストラクター、チルドレンズフレンド、扶助協会誌から最も重要で適切な記事を選び、それらに、教会の各組織が準備した記事と伝道部長の指示により作成された地方の記事を載せるのが最善の方法との結論が出た。次にこれらの記事を各国語に翻訳する。これは、以前からほとんどすべての伝道部で行なわれていたので、ソルトレックからの指示により翻訳を各伝道部地域で行なうことは容易であった。

最初の共通機関誌はヨーロッパの九ヶ国語で出版された。そして、他の伝道部の指導者も出版が可能と見るや、共通機関誌の出版に加わり、極東やポリネシア地域も加わった。現在では、アメリカインディアン用の英語版を含めて17ヶ国語に印刷されている。



中国語	聖徒之声	
デンマーク語	Den danske Stjerne	デンマークの星
オランダ語	De Ster	星
英語 (アメリカインディアナ)	The Liahona	リアホナ
フィンランド語	Valkeus	光
フランス語	L'Étoile	星
ドイツ語	Der Stern	星
イタリア語	La Stella	星
日本語	聖徒の道	
韓国語	성도의 길	聖徒の道
ノルウェー語	Lys over Norge	ノルウェーの光
ポルトガル語	A Liahona	リアホナ
サモア語	O Le Liahona	リアホナ
スペイン語	Liahona	リアホナ
スウェーデン語	Nordstjarnan	北極星
タヒチ語	Te Tiarama	光
トンガ語	Ko E Tuhulu	たいまつ

る。現在出版されている国語と雑誌名は次の通りである。

四誌までが、主が予言者リーハイとその家族が荒野を旅する時与えられた羅針盤にちなんでリアホナと呼ばれているのは興味あるところである。

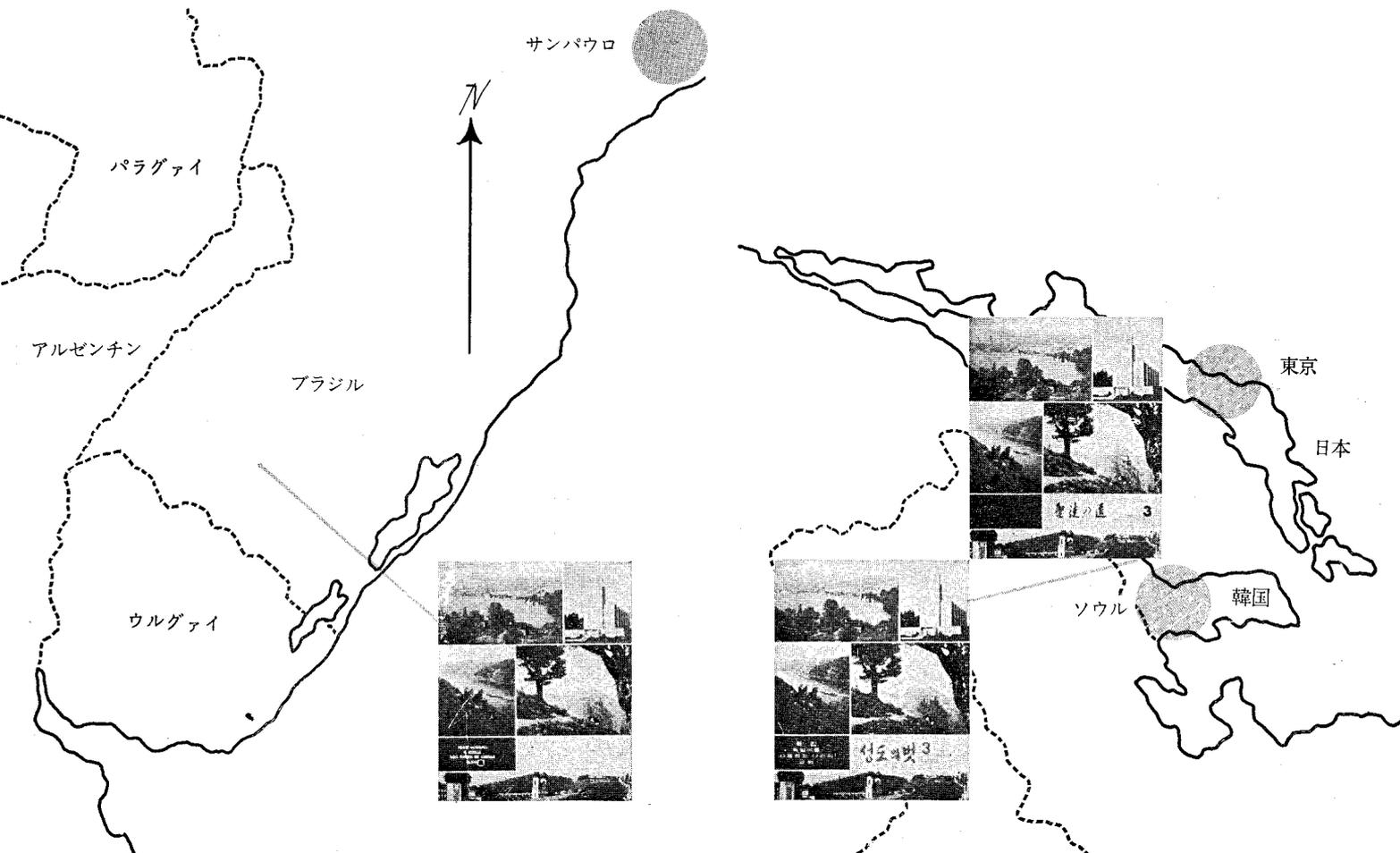
共通機関誌の多くは初版より何年も経ているので帰還宣教師やその他の人々に愛読されている。例えば、ドイツの **Der Stern** は、今年創刊百年を記念して特別号を発刊した。それは、1869年に始まり、ドイツ語を話す人々に多大な貢献をなしている。現在購読者数は約6,000である。

1945年創刊のスペイン語誌 **Liahona** は、7,700の購読者を有している。

購読者数でスペインに次ぐのはフランス語誌でその数3,750、1928年に創刊された。

一方、創刊が新しく、購読者の少い誌もある。例えば、イタリア語の **La Stella** などは500人である。最新のものでは、1968年創刊のタヒチ語の **Te Tiarama** があり、仏領ポリネシア伝道部向けに出版されており、創刊は1968年である。フランスの **L'Étoile** も同伝道部内の聖徒達に購読されている。

1968年8月共通機関誌の編集責任は、新たに組織され、コリレーション役員会会長ハロルド B. リー長老の監督下にある教会編集部へ移管された。編集



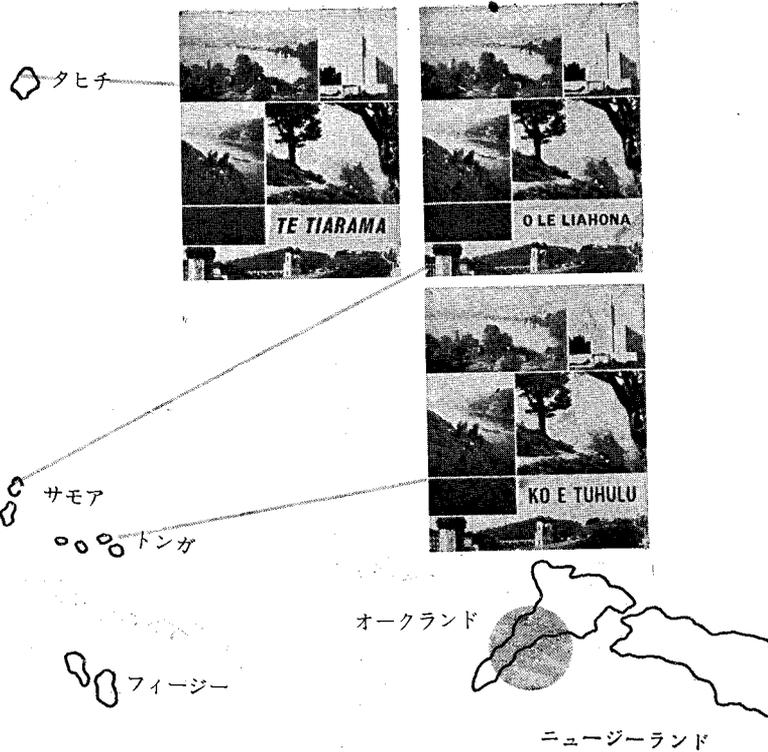
部員は、最新の英語誌から毎月記事を選び、審査しそれが共通機関誌の予定記事になる。そして、各国語地域の代表者からなる教会翻訳部の委員会がそれらを審査した後、教会コリレーション委員会の代表者がそれらの記事を読む。レイアウト、写真、版下翻訳者用の写しを作成した後、翻訳部により各国語地域の代表者に送られ、16カ国語に翻訳される。

そして翻訳された原稿は、5ページの伝道部記事と共に七ヶ所にある印刷所に送られる。

一方、ソルトレーク市の編集部は、表紙用のカラー分解フィルムを作る。それらは主にインプルーヴメントエラからのものである。その他に本紙で使うポジフィルム、ネガフィルム、版下も作成される。これらはレイアウトや印刷の指示と共に、印刷所へ直接送付された後、印刷に着手する。

共通機関誌の印刷所は英語（アメリカインディアン）、スペイン語はソルトレーク市。ポルトガル語はブラジルのサンパウロ。サモア語、トンガ語、タヒチ語はニュージーランドのオークランド。ドイツ語、イタリア語、ノルウェー語、スウェーデン語、フィンランド語、フランス語、デンマーク語、オランダ語はドイツのフランクフルト。中国語はホンコン。日本語は東京。韓国語はソウルである。

共通機関誌プログラムは、我々の兄弟、姉妹がたとどこに住んでいようと、できるだけ多く教会のプログラムに接する機会を与えたいという教会幹部



の要望に基いている。共通機関誌を通じて教会幹部よりの大切なメッセージ、教会に関する重要事項、教義、方針、発展状況が今や全世界の教会員、友達の家庭へ送られている。



目標の設定と

その達成方法



十二使徒評議員

マーク E. ピーターセン長老

目 標を設定し、達成する際に、次の三段階すなわち、(1)診断、(2)処置、(3)回復がある。

診断：情況判断が無ければ、目標は設定しえない。暗闇の中で努力するようなものである。

長年の間、私はデゼルトニュース社でアルバート E. ボウエン長老と共に働き、彼を愛し、感謝するようになった他、多くのことを学んだ。私達が問題解決にあたる時、彼はいつもこう言っていた。「事実を集めなさい。事実に代りうるものはない。」それで、私達は問題を診断しようとする時は、事実を集めなくてはならなかった。

診断の際、私達は主として次の三つの方法を用いた。(1)報告書の適切な利用、(2)当事者との面談、(3)訪問による個人的観察。

報告書の研究と利用：報告書の研究により仕事の現状を把握することができる。そして、現状を把握して次にどんな進歩が期待できるかを決定すべきである。たとえば、同じような状況下にある他のステークキ部で行なわれていることは判断しやすいであろう。そして、ステークキ部の活動でどんな進歩が期待できるかを見極めるため、研究し、決定して、目標を定める。

私達が研究対象にしたあるステークキ部で、聖餐会の出席率は28%だった。同じ地域の他のステークキ部では33%であることに着目し、妥当な目標を42%とした。また前者の日曜学校出席率は39%、後者は41%であった。それで目標を50%に置いた。

MIAはYWが41%、YMが35%であった。近くの他のステークキ部ではYWが48%、YMが42%であるのに着目し、YWは65%、YMは55%に目標を置いた。ホーム・ティーチングについては、達成率が23%であるのに対し、同じ地域の他のステークキ部では、48%であった。私達は目標を80%に置いた。家

庭の夕べを開いている家族はわずか75家族であったが、一方同地域の他のステークキ部では384家族が家庭の夕べを開いていた。私達は期待できる妥当な数として700家族を目標とした。

一例を挙げてみよう。数年前合衆国東部のあるステークキ部(Aステークキ部と呼ぶ)の聖餐会出席率を調査した際、27%だった。同地域の他のステークキ部は、Bステークキ部が27%、Cステークキ部が27%であった。それでは、Aステークキ部の目標は何パーセントにすべきであろうか。他のステークキ部に同率であるという理由で、そのままにしておくべきであろうか。私達は決断を下す前に、東部にある他の「大都市」ステークキ部に着目してみた。

Dステークキ部……………30%

Eステークキ部……………34%

Fステークキ部……………34%

Aステークキ部の27%は満足すべき数であろうか。次に、ロスアンゼルス地域で出席率が最低の部類に属するステークキ部に着目した。

Gステークキ部……………30%

Hステークキ部……………31%

Iステークキ部……………32%

大都市の状況も大して違いはなかった。ある大都市のステークキ部の良い部類で43%あった。

いくつかの大都市ステークキ部がそのような数に達し得たとすれば、G、H、Iステークキ部に同じ数を期待するのは不当であろうか。高い出席率を示す大都市ステークキ部はAステークキ部の目標を設定する上で目やすとなるであろうか。

高い出席率のステークキ部の40%とAステークキ部の27%との中間が妥当な目標であろうか。とすれば、33%となる。第一段階としては、この数は妥当と考えられる。

ワード部や補助組織を向上させる6つの

ユタ州に散らばっているいくつかのステーキ部の出席率を調べると平均が46.5%であることに私達は注目した。これは第一の目標33%を達成した後の第二の目標になり得るであろう。

更に調査した結果、次のことがあきらかになった。Aステーキ部の会員のうち32%が日曜学校に出席し、Bステーキ部では、31%、Cステーキ部では34%であった。Aステーキ部の目標値をどこへ置くべきであろうか。

私達は45%ではどこのステーキ部でも低すぎると考えた。どのステーキ部でも半分以下の会員しか日曜学校に出席できないと考えられなかった。

では、Aステーキ部の妥当な目標値は何パーセントであろうか。

最低50%の日曜学校出席率を求め、Aステーキ部にこの数を提示した。他のステーキ部が50%以下であるからといって、Aステーキ部の目標値50%以下で良いとはいえない。

単に統計上の平均値からでなく、必要な数値に目標を置くべきである。

ユタ州のステーキ部の日曜学校出席率は最低が34%、最高が76%であった。

76%を達成したステーキ部があるとしたら、他のステーキ部は50%に到達できるはずである。

ホーム・ティーチングについて、私達は以下の達成率を得た。

Aステーキ部	43%
Bステーキ部	38%
Cステーキ部	35%

第一段階として、50%の目標はAステーキ部にとって無理な数であろうか。

オウエン兄弟の言うように、「事実には代りうるものはないのである」。報告書は必ずしも実態の全貌を表わすものではない。統計上だけでは、目標が判然としない。私達は当該地域の人々を訪れ、観察し面接して、さらに確実な実態を把握しなければならない。



処理：研究により、

弱点が指摘され、必要な事柄が判明する。必要な事柄が治療法を示し、目標を明らかにする。治療法は「薬」または目標を決定する上に必要な、特定の段階に決めてくれる。

あるステーキ部が聖餐会出席率を実際に調べた結果、ステーキ部内で最低の出席率のワード部が判明した。訪問と面接の結果、次のことが明らかになった。敬虔な雰囲気は乏しく、音楽が貧弱で、聖餐式がうまくいっていない。また、準備のできていない話。これらが人々の興味を失わせているのだった。

それで以下の目標が設定された。

1. 敬虔さを増す計画を作る。
2. ホーム・ティーチングを通じこの指示を指導者が集会で模範を示すことにより、敬虔な雰囲気を確立する。
3. ワード部聖歌隊にワード部音楽委員会を組織させる。
4. 聖餐式を執行するためアロン神権者を正式に組織する。

計画がある。いずれが最も適しているか。

5. 話の計画を作る。
6. 役員と教師とで、出席奨励委員会を組織する。

上記の目標を達成する段階では以下の事柄が実施された。

1. ホーム・ティーチャーは家庭を訪問した際、敬虔を教えた。監督は集会の始まる10分前に前奏を弾かせ、会衆にその間敬虔さを保つよう要請した。適当な案内人をおいた。

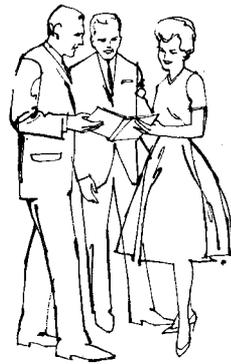
会員達が集会所に着いた時、暖かい握手で歓迎したが、これは敬虔の念を表わすため、静かに行なわれた。初めての訪問者は、クロークの部屋に案内され、礼拝堂近くにいる監督会に紹介された。そして礼拝堂にいる案内人が訪問者を席へ案内した。

会を司会する監督会の会員は、模範を示すため、早くから演壇の席に座っていた。4人の成人アロン神権者が案内人をつとめ、青少年アロン神権者がそれを助けた。この働きは受賞の項目に数えられた。

集会の10分前に、オルガニストは、前奏曲を弾いた。この特別な敬虔プログラムの実施される前、オルガニストが集会5分前になっても到着せず、すべてが遅れることもしばしばだった。監督は時間通りに前奏を始めるよう要請し、前奏の始まる直前に監督会の一員が人々に静粛を求め、同時に、集会後、後奏が演奏されたら、会衆は静かに礼拝堂を出るよう発表した。

2. 監督はホーム・ティーチャーに依頼して、ワード部会員に敬虔についての計画を説明させ、子供達には、教会は主の家であるから、静かにまた敬虔にして座っているよう話してもらうように提案させた。

3. 次の計画は音楽の質を高めることであった。監督会は音楽委員会を組織し、次いで聖歌隊員を招いた。また音楽委員会と共に聖餐会で歌う讃美歌について話し合った。初等協会の子供達がステーキ部大会で非常にきれいに歌うので、月一度の日曜日に聖餐会で歌ってもらうよう提案した。MIAのコーラスは、若人をひきつけるような、曲を歌うことにした。聖歌隊は末日聖徒讃美歌を歌って音楽を強調するよう計画された。



4. 祭司、執事に綿密な指示が与えられた。次に聖餐式執行の改善がとりあげられた。監督は聖餐のパスを割当てられた日曜日しか執事が聖餐会に出席していないことを知り、聖餐のトレイをいくつか購入して、執事が全員、毎週の日曜学校と聖餐会でパスをするよう割当てた。執事を全員使うことにより、儀式的時間が早められた。

5. 次に監督は各聖餐テーマを決めて、前もって話し手を割当てておき、話の内容を高めてもらう計画を立てた。監督は毎日曜の夕べに開かれる聖餐会でリグラン・リチャーズ長老著「奇しきみわざ」から一章ずつをテーマに選んだ。聖餐会の話は五人で十代の三人が三分ずつ話し、大人が二人15~20分間話すよう割当てを与えた。話の時間が合計で50分を越えることはなかった。話をする人は少なくとも二週間前にはテーマが与えられ、持ち時間は何分かが伝えられた。

では、割当てが実際どのように行なわれたかを述

べてみよう。ある腕のテーマはバプテスマであった。十代の一人は、バプテスマのヨハネの使命とキリストのバプテスマについて話し、もう一人はバプテスマの様式として水に沈められることについて話した。さらにもう一人は握手礼により聖霊の賜を授かるための「みたま」のバプテスマについて話した。成人会員のうち一人は、バプテスマを施すために必要な神の権能を、教会はどのようにしてその権能を受けたかをテーマに話し、最後の話者が死者のためにバプテスマと死者に福音を宣べ伝えることについて話した。

6. 次に監督はワード部補助組織役員と、聖餐会の出席人数を増やすことについて話し合った。監督は次のように話した。「私達監督会は聖餐会に出席します。そして、私達は家族全員で毎週日曜日出席します。皆さん一人一人にお願いしたいのですが、あなたがたも家族全員で毎週日曜日出席していただきたいのです。組織の他の役員・教師に同じことをお

願いしていただけますか」監督はアロン神権、メルケゼデク神権の定員会へ行って、同様の要請をした。

監督は、ステータ部長会に計画の承認を求めた。六ヶ月後、聖餐会出席率は29%から51%に上昇した。

目標に到達するまでの間、監督は統計と個人の両面にわたって観察を続けた。その結果、聖餐会出席率は51%に達し、ワード部会員の間に一層の一致が見られた。すなわち、補助組織や定員会の活動は活発になり、ワード部の霊性は非常に高められた。

聖餐会が求道者の学ぶ機会となり、伝道活動をも助けたのである。

私は統計それ自体は不十分なものであると信じている。上述のワード部は、敬虔、聖餐式の執行、聖餐会での話に改善を必要としていたが、それらは統計だけでは何ら指摘されなかった。しかし、個人を観察した上で、ワード部、ステータキ部を研究してみると、統計は設定すべき目標の指摘に役立ち、目標の達成に踏み出す基礎の役割を果たした。

新旧両世界における古代の予言者達はイエスについて証した。この記録はイエスの降誕を証している。それはモルモンの予言者のこのような言葉で…

私たちはキリストの栄光を 待ち望んでいる

H. ドナルド ピーターソン

人類に与えられた最大の喜びのおとずれは、イエス・キリストが世の救い主であり、贖い主であるということである。人々を導くべく召された予言者はすべて、この偉大な原則を宣言している。イエスこそ、人類が完全に復活した肉体をまたい再び生きることができるようにと死に打ち勝たれたお方である。もし忠実ならば、信仰厚き者のために用意された永遠の住居で主と共に住めるといふ計画を我々に与えたのはイエスであった。その計画はイエス・キリストの福音である。

このすばらしい福音は、単に我々の次の位の備えだけにと

どまるものではなく、福音に従えば、この世においても、心の平和と人生を最も有意義に送るための指示を受けることができる。父祖アダムは福音の計画を知らされた後、次のように証している。「われこの世に生きて悦びを受け、われまた再び肉体に在りて神を見ん。」(モーセ5:10)

モルモン経の証

中近東に住み、旧約聖書を書いた予言者達は、キリスト降誕の教えに精通していた。モルモン経の予言者達も靈感により、キリストの降誕を予知し、この驚くべき予言を人々に伝

えた。

キリスト降誕の約600年前に生きた予言者ヤコブは、自分を含めた古代の予言者達がキリストの使命をよく知っていたことを記録に記し、後の読者に明らかにした。

私たちがこのいくつかの言葉をこの版にのせるのは、私たちがもうすでにキリストのことを知っていることと、またキリストが降誕したもう何百年も前に私たちばかりでなく、私たちよりも先に出了たすべての聖い予言者たちもまた、すでにキリストの栄光を待ち望んでいたことを兄弟たちと子孫たちに知らせるためである。(ヤコブ4:4)

モルモン経は、いくつかの古代の民の間に起きた宗教上の出来事からなっているが、そのすべての人々がキリストを証している。

ジェレド人の証

イテル書はモルモン経中最古の民、すなわちジェレド人の書物からなっている。ジェレド人はバベルの塔の時代に西半球へ移って来た。最初のジェレド人移民の予言者であり指導者であったジェレドの兄弟は、霊体のキリストを見、この地の人々のためにキリストが来たりたもうことや偉大な贖いの計画を知らされた。(イテル3, 4章参照) ジェレドの兄弟の後もジェレド人の予言者は続いた。彼らも民が主の福音の計画に適わない行ないをした時、イエスについて話し、民をいさめた。

真鍮版の予言者

ニーファイの民がエルサレムを離れて、(B, C, 約600年) 西半球へ移った時、民の神聖な記録を携えていた。これは真鍮版に刻まれていたので、これらの古代の神聖な書物は、ニーファイの記録の中で「真鍮版」と呼ばれた。

この版には、我々が以前に知られなかった三人の予言者ゼノス、ゼノク、ニアムの名が記されている。イエス・キリストの降誕に関する彼らの予言は特にはっきりしている。ゼノクはキリストのはりつけについて語り、キリストが人々に

与えたもうた慈悲について述べた。霊的に盲目であった当時の人々は、ゼノクを石で打ち殺した。(I ニーファイ19:10, アルマ33:15~17参照)

ゼノスは海の島々に住む者たちに、キリストの死のしるしとして現われる三日間の暗黒を予言した。ゼノスはまたユダヤ人を待ち受けている苦難に言い及び、こう述べた。「これはイスラエルの神を十字架につけ、自分たちの心をそむけてしるしも奇蹟もまたイスラエルの神の能力と光栄をも顧みないから、世の人すべてに苦しめられる」(I ニーファイ19:10, 13参照) モルモン経で最も長い章はヤコブ書第5章である。そこには、イスラエル家の将来に関するゼノスの予言が記されている。ゼノスのたとえ話をまとめている時、予言者ヤコブはこう問いかけている。

「ごらん、あなたたちはこの言葉を否定しようとするのか。多くの予言者の言葉を認めようとはしないのか。多くの人々がキリストについて話をしたのに、あなたたちはキリストに関する言葉をみな否定しようとするのか…(ヤコブ6:8)

ヒラマンの息子ニーファイは、キリストの証をした昔の数多くの予言者達について述べた後、ゼノスの行く末について言っている。

私はアブラハムの時代の後にも、これらのことを証した予言者が多かったことをあなたたちに知らせたいと思う。予言者ゼノスは勇敢に証拠立てたが、これがために殺されてしまった。(ヒラマン8:19)

真鍮版に記されていた第三の予言者ニアムは、キリストが墓に葬られるであろうと述べている。(I ニーファイ19:10参照)

ニーファイ人はキリストを知っていた

ベンジャミン王の書物に特に力強い聖句が見られる。明らかに、モーサヤ書第三章の大部分は、天使がキリストの降誕の意味と目的について説明した言葉である。天使はこう述べている。「見よ、われらは大きな喜びの音ずれを聞かせよう

としてきたから、目をさまして……」(モーサヤ3:3)そしてベンジャミン王にキリストの生涯と使命を説明した。次の聖句は非常にはっきりしており、意味がある。「全能の主」が天より下りたもうて、「土から成る身体に宿りたまひ」、人々の間をめぐって病人たちを医すなどの大きな奇蹟を行ないたもう。そしてこのお方は誘惑を受け……これは死ななければ人間に堪え難いほどひどいものである。なぜならば、見よ、このお方は全身の毛孔から血を流したもうほどに、その民の罪悪と憎むべき行いのために苦痛を感じたもうからである。このお方は神の御子、天地の父、創世の時から万物を造りたもうている造り主イエス・キリストと呼ばれ、その母はマリヤと呼ばれる。」(モーサヤ3:5~8参照)

天使は続いてキリスト降誕の目的、苦しみとはりつけ、復活と裁きについて説明した。(モーサヤ3:9~10参照)

この簡潔にして力強い聖句より、ニーファ人はキリストの降誕についてははっきりと理解していたことがうかがえる。また次にあげるように歴史を通じて数々の証が記されている。

リーハイ：「そして、まことにエルサレムを去った時から六百年の後、主なる神はユダヤ人の中に一人の予言者すなわち一人のメシヤ、すなわちこの『世の贖い主』が現われたもう。」(Iニーファイ10:4~17参照)

ニーファイ：「さてごらん私の兄弟たちよ。これがすなわち道である。このほかには、人を神の王国に救う道も名も天下にない。これはまことに、キリストの教えであって永遠に一つの神会を成す天の御父と御子と聖霊の唯一つの真正な教えである。」(IIニーファイ31:17~21参照)

ヤコブ：「ごらん私はキリストの降誕がほんとうであることを私の民に証明するのを心に喜ぶ。何となれば、モーセの律法はキリストの降誕が確であることを証するために与えられたからである。また、世の始めから神が人間に与えたもう

たのは、ことごとく前もってキリストのことを表している」(IIニーファイ11:4, 9章も参照)

ジェロム：「……メシヤを待ち望んでちょうどメシヤがすでに来りたもうているかのようにその降臨したもうことを信ぜよ。」(ジェロム11)

アビナダイ：「この予言者たちは、神が親しく世の人々の中に降臨して人の形を受け、大きな能力をもって世界の面を歩きたもうことと、神が使者の復活を来し、また自ら悩まされ責められたもうことを告げたではないか。」(モーサヤ13:34:35)

アルマ第一世：「ごらん、天国は近づきて、神の御子はいよいよ地上に降臨したまわんとする。神の御子はエルサレムのあたりでマリヤから生れたもう。マリヤは神の能力に覆われ、聖霊のちからによって懐妊し、男の子すなわち神の御子である方を生むはずの処女であって、選ばれた貴い器である。」(アルマ7:9~13参照)

アミュレク：「ごらん、私ははっきりと言うが、キリストはその民の罪を贖うために世の人の中へ降り、また世の人の罪も贖いたもう。主なる神がそう仰せになったから……」(アルマ34:8~16参照)

レーマン人ヒラマン：「キリストは救いを来すために必ず死にたもう。キリストが死にたもうのは、死者を復活させてこれによって人々を主の御前に帰らせるために必要であってまたキリストの義務である。」(ヒラマン14:15~18参照)

このように、モルモン経の予言者は聖書の予言者と共に、真にイエスがキリストであり、全人類の救い主であるという偉大な真理と唯一つの望みを宣言したのである。



「おとうさん今日のレッスンは本当にすばらしかったわ」

「本当よ。開拓者は何週間もトウモロコシパンと糖みつしか食べ物なかった時もあったと先生がおっしゃったわ」

「そうだったろうね」

「そうよ。お父さん。私達がトウモロコシパンと糖みつを食べながら、開拓者についていろいろ話してた時、私も開拓者と同じ気持になったわ」。じょうずな教師から教えられた興奮を思い出して、マーチはとてもうれしそうだった。

マーチは話しながら、何も食べずにおかずを突ついてばかりいた。食べるように言うと、マーチはその食べ物は嫌いだと答えた。

「マーチはまだ、開拓者のような気持でいるのかい」

「ええ」

「ねえ、マーチ。お前の年ぐらいの開拓者の女の子は、好き嫌いを言わないで、何でも食べたんじゃないかい」

マーチはしばらく考えて、食べ始めた。

日曜学校のレッスンで、開拓者に本当に感謝していることを行動に表わすよう教えられて、新しい意味をつかんだようだった。もちろん、この場合開拓者に対する彼女の暖かい気持を行動に移させるには、何らかの助けが必要であった。さらに、鶏と卵の推論に戻って考えてみると、開拓者の精神を体験した私の娘の話も、上手なレッスンにより態度に影響が与えられていなかったら、娘にとって何の意味もなかったであろう。

ある証

もう一つの例を挙げよう。今年の夏、短期間であったが私は日曜学校の18歳のクラスの教師に召された。断食日曜日のレッスンで、その日少くともクラスの一人はレッスンの内容

から証を述べさせるという目的を立て、それをレッスンの途中で言いわたした。そして、証会でクラスの一人が立って証を述べ、その理由というのが、先生にレッスンの目的を果たしたことを見せ、先生を失望させたくないためだと述べた。疑問に思われるかも知れない。「その時、少年は正しい理由に基づいて証を述べたのだろうか」だれがその答を言い得るであろう。しかし、その少年が証を述べたのは事実であり、それは行動の誘因の結果だったのである。そして、もっと高い目標を与えたとしても、だれかがそれに立ち向ったであろうと私は確信している。

行動が完全に正しい理由に基づいていようといまいと、それが繰り返し行なわれるならば、その行動はいつか、真実の証であり、それを分かち合いたいという正しい理由に基づいて行なわれるようになるであろう。

永久的な変化

教えることは、石を彫刻する作業に似ている。彫刻家はハ

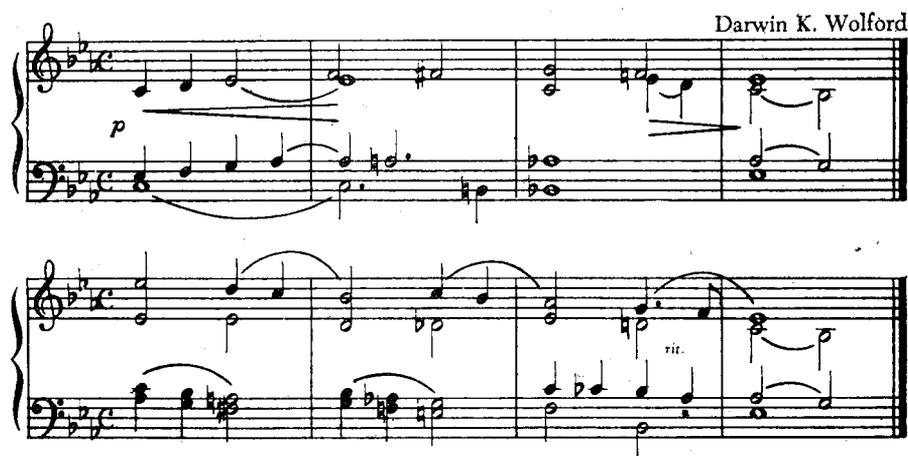
ンマーで石をたたくことから始めるが、それは外見的には何の効果もないであろう。そして何の「効果」もなく同じ所をたたき続けるのである。何度も何度も……。割れ目もできず石には何の変化がなくとも、そして、いつか、前と全く変わらない何回目かをたたいたことにより、やっとかけらが飛び散るのである。

人についても同じことが言える。正しい行動へ移らせるには、繰返しの機会が必要である。どこかで、人生に永久の変化をもたらすような行動が起こるのである。

この理由で、福音のレッスンは、いつの日か正しい理由に基づいて、すなわち偽善でなく、悪たくみでなく、神の栄光のために、ひたむきな行動に向かわせる感情と態度を育む一方、行動に移らせるよう教える必要がある。

教師が福音のレッスンを準備し、教える時、この考えを心に抱いているなら、行動に移らせる目的を立てて、それがために健全な感情と態度を培う努力が失敗に終ることはないであろう。

聖餐の聖句伴奏曲



1 月 聖餐の聖句

大人日曜学校

これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。

(モーセ：1)

子供日曜学校

自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。

(マタイ22：39)

純金の

むかしむかし、高い山の上に、小さな村がありました。それは、とてもお金持ちの村でした。というのは、この村びとたちのほとんどが、坑夫（こうふ）として成功していたからです。お金が有的时候には、坑夫たちは鉱山（こうざん）に一日入って、自分の袋を金塊（きんかい）でいっぱいにして、帰ってきました。坑夫になりたくなかった人たちは、店を持ったり、学校で教えたり、馬具や馬の蹄鉄（ていてつ）を作ったり、やさいを作ったりしました。そして坑夫たちはその人たちのはたらきをたいして、じゅうぶんなお金をはらいました。

村びとたちは、自分たちの村をたいそうじまんにしていました。とくにみんながあつまる集会所（しゅうかいじょ）がじまんでした。

ある日、村のえらい人たちが、かじやの店にやってきて、「集会所のとうにつけるかねがほしいのだが、純金（じゅんきん）のかねを作ってくれないか」といいました。かじやさんは頭をかきながら「そんなものは、お気にめしますまい」といいました。

「いいや、気にいるとも、わたしたちの集会所には、純金のかね以外にふさわしいものは、なにもないのさ！」

かじやさんはためいきをついていました。「そうはおっしゃっても、まさか、そんなものをね。でも、どうしてもそうなりたいのなら、お作りしますよ。金を持ってきて下さい」

坑夫たちは、なんども村から鉱山へと出かけて行って、たくさんの金を持ってきたので、かじやさんは、かねを作るしごとをはじめました。

村びとたちは、かねを作るところを見たがりましたが、かじやさんは店の中にだれも入れませんでした。かじやさんはいく日もはたらきました。

村びとたちは、店の入口にやってきて「もうすぐできあがるのかい」とねっしんにたずねました。

でも、いつもかじやさんは、「できあがるときにはそういますよ。」といて、みんなをおい返しました。

なんしゅうかんも、すぎました。村びとたちは、だんだんいらいらしてきました。そしてある日、かじやさんはみんなにかねは土よう日にできあがるだろうといいました。

夜があけて、あかるくはれた土よう日がきました。

村の人たちは、今まででいちばんいそがしそうでした。男の人たちは広場の草はらにテーブルをならべ、ピクニックのよういをしました。女の人



かね

H. トレア モリス

たちは、のみものや、バスケットに入れるごちそうのようい
をしました。子供たちは、広場にあるかだんをきれいにする
ために、花のていれをしました。

かじやさんは店の入口をあけて、村のえらい人たちに「さ
あ、かねをつけてもいいですよ」といいました。

村びとたちがあつまってきました。

うつくしいかねが、町をとって集会所にはこぼれるとき
みんなはよろこびの声をあげました。そこで男の人たちが、
太いつなにかねをしっかりとむすびつけて、とうの中を上へ
上へとひっぱり上げました。純金のかねをはじめてならずと
きが近づいてきました。校長先生に、つなをひいてさいしょ
のかねをならすめいよがあたえられていました。

みんなは広場にあつまり、わくわくして顔をかがやかせて
いました。とうとう、村びとたちのすばらしいかねが、うつ
くしい音をひびかせるときがきたのです。

校長先生は足をしゃんとのぼし、つなをしっかりとにぎっ
てつなをひきました。ところが、村のえらい人たちや、うつ
くしいかねの音をきこうとまっていた人たちの耳にひびいて
きたのは、「どしん／どしん／」というにぶい音でした。

校長先生は、つなのひきかたがたりなかったのだなと思い
ました。そこでもういちど、足をしゃんとのぼして、りよう
手をこすりあわせ、もういちどつなをひきました。

しかし、かねは、あいかわらず「どしん／どしん／」とい
うにぶい音をたてるだけでした。

村のえらい人たちは、かじやさんのところにかけて、
「いったい、どうしたというのだ！ われわれの純金のかね
は、ならないじやないか！」とどなりました。

かじやさんは、頭をかいていました。「だからもうしあ
げたはずですよ。そんなものはお気にめしますまいって」
「しかし、どこがわるいというのだ」

そこで、かじやさんはせつめいしました。

「かねはどこもわるいところはありませんよ。ただ、純金
のかねはならないということなんです。もし、なるかねがお
のぞみならてつでかねを作らなくては。」

村のえらい人たちは、がっかりして、顔を見あわせました
「しかし、べつのかねを作るには、またなんしゅうかもかか
るのだろう！」

かじやさんはちらっとよこ目をつかって、にやに
や笑いながらいいました。「純金で作ったかねがお
気にめさないのはわかっていましたよ。ですから、

わたしはもうひとつのかねを作っておきました。もし音ので
るかねがおのぞみなら、わたしの店のうらに、みばえのしな
いてつのかねがおいてありますよ。」

まもなく純金のかねはひきおろされて、そのかわりに、て
つのかねがすえつけられました。村人たちは、もういちどど
うの上に耳をかたむけました。村のえらい人た
ちは、ともしんばいしました。

校長先生は足をしゃんとのぼし、つなをにぎ
りしめてせいっぱい力をこめてひっぱりまし
た。

さいしょの音をきいた村びとたちはびっくり
して顔を見あわせました。村のおえらがたは、
うれしくてないてしまいました。てつのかね
が、うつくしくすんだ音を、鉾山にまでひび
かせたので、校長先生はきちがいのようによ
ろこんでつなをひきました。

おべんとうをたべたあと、みんなはよ
ろこんで、なんどもなんどもかねの音に
耳をかたむけました。校長先生は、村の
えらい人たちの会をひらきました。

この会のあと、どうぐとざいも
くをもってきてしごとをはじめま
した。まもなく集会所のしょう
めんがなじような台ができあ
がりました。純金のうつくしい
かねが、ちゅういぶかく、村
じゅうのどこからでも見え
る台の上に、おかれまし
た。

かしい校長先生が、こ
うせつめいしました。

「これは、どんなものでも、そ
れがもっているいちばんよいつか
いみちにあわせてつかうひつよう
があることを、わたしたちにおし
えてくれます。」



什分の一の律法

十二使徒評議員

リグランド リチャーズ長老

扶助協会の姉妹の皆様へ

私はあなたがたに、主の什分の一の律法についてお話するように頼まれました。そこでこの話をするにあたって、この原則が真実であることを証ししたいと思います。私はこれまで、支部長を1回、ワード部監督を3回、ステーキ部長を1回、伝道部長を2回、また管理監督を14年つとめてきて、什分の一の記録にたずさわることが多くありましたので、人々が主にたち帰れば、主は人々に報いたもうといった約束を、主が決してお忘れにならないと確信しています。

財政に関する主の律法

主はこの末日に、2つの大きな目的をもって、什分の一の律法を主の教会にお与えになったと思われまます。

第Ⅰ：教会の財政を運営するうえで最も公平な方法です。各人の収入に応じて負担をすればよく、未亡人が少額を支払うのも、富める人が大金を支払うのも同じことだからです。

第Ⅱ：人々の信仰と什分の一の律法に対する従順を試すことです。これには約束の祝福が伴います。そこで、これは主が人々に与える祝福の律法となります。

1838年7月8日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、主は予言者ジョセフ・スミスの願いに答えて次の啓示を下されました。

「主よ、主はその僕らに幾何を什分の一として汝の民の財産より求めたもうかを示したまえ。

誠に、かくの如く主は言う。われ人々その剰余の財産をことごとくシオン



に於けるわが教会の監督の手に納めんことを求む。こはわが宮居を建つため、シオンの礎を置くため、神権を有てる者のためまたわが教会の大管長会の負債のためなり、これを以てわが民が為す什分の一の始めとなすべし。まずこれを為して後、かくの如く什分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の什分の一を納むべし。これを以て、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となすと、主は言う。われ誠に汝らに告ぐ、すべてシオンの地に集る者はその剰余の財産を什分の一として納め、この律法を守るべし然らざらば彼らは汝らの中に住むに適しからぬ者なり。われ汝らに告ぐ、もしわが民にしてこの律法を守りて聖く保たず、またこの律法によりてシオンの地をわれに聖くして以てわが律令と審判とをそこに保ち、その地を最も聖きものとなさざらば、見よ、誠にわれ汝らに告ぐ、そは汝らにとりてシオンの地にあらざるべしと。こは、あらゆるシオンのステーキ部に通ずる範例なり。誠に然り、アーメン。」(教義と聖約119章)

什分の一の目的と用途

聖徒たちがミズーリの地にシオンを

建設するために努力していた時、彼らは主の求めに従い、シオンにおける主の教会の監督に自分たちの剰余の財産をすべて納めました。その時以来、聖徒たちは「彼らの守るべき永久的定法」に従うよう努力してきました。

「まずこれを為して後、かくの如く什分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の什分の一を納むべしこれを以て、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となすと主は言う。」(教義と聖約 119：4)

この啓示で、主は什分の一を使用する目的を示されました。

「こはわが宮居を建つため、シオンの礎を置くため、神権を有てる者のためまたわが教会の大管長会の負債のためなり。」(教義と聖約 119：2)

主はさらに、什分の一を処理する責任のある人について言っておられます。

「……わが教会の大管長会、監督その評議会およびわが高等評議員会員によりて構成する会議により、什分の一たる財産を処理すべき……、またこれは彼らに告ぐるわが声によりて為さるべきなり。……」(教義と聖約120章)

1831年9月11日、オハイオ州カートランドにおいて予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は什分の一の律法を守る重要性を非常にはっきりと述べておられます。

「見よ、人の子の来るまで今より後を『今日』と称えられる。誠に『今日』は犠牲の日、わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。この『什分の一』を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。」(教義と聖約64：23)

もし人が、地上に神の王国を築くために何の寄付もしていなかったことに気がつき、特に、自分の持てるものがすべて主から与えられたものであると悟ったら、「人の子の来たる」時、人

は良心を痛めずにはいられないでしょう。なぜなら、主はこの地球と地に満ちる物すべてを創造され、私たちに生命を与えてこの地球に住ませ、私たちが忠実であれば「地を受けつぐであろう」という約束を与えられたからです。(マタイ5:5) それでは、このようなゆずりに対して、私たちは喜んで何かを払わないことがあるのでしょうか。わずかな土地を買うために、10年も20年もお金を払っている人をよく見かけます。人は永遠のゆずりを得るためには、わずかな土地以上の興味を持つはずです。

自分の一を支払うことにより信仰を深める

人が信仰の証として、この世で得たものの一部を出すには、従順の面で大きな信仰が必要なことを、主はいつも御存知です。ですから、子供たちの信仰を深め、試すために、主は子供たちからの捧げ物でその教会の財政をまかなう必要がない時でも、犠牲の律法を与えられました。

カインとアベルの例をとります。この2人には犠牲の律法が与えられました。

「……カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。アベルもまたその群れのういごと肥えたものを持ってきた。主はアベルとその供え物を顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかったので、カインは大いに憤って、顔を伏せた。そこで主はカインに言われた、「なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか、正しい事をしていましたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのであれば、罪が門口に待ち伏せています……」

(創世4:3~7)

主は、カインの地の産物もアベルの

群のういごと必要ではなかったのです。なぜなら、それらは主に對する捧げ物として焼かれました。カインとアベルは神への愛と信仰を示すために、この犠牲を行なう必要がありました。

この聖句を注意深く読むと、アベルは正しい心を持って「その群のういごと肥えたもの」を捧げ、一方カインはサタンに命ずるごとく捧げ物をしたことがわかります。(高価なる真珠、モーセの著5:18参照)

このために、「主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかったのでカインは大いに憤って、顔を伏せた」そしてカインの心に悪が入り込み、弟アベルを殺したのです。

では、イエスが金持ちの青年と話された時のことを考えてみましょう。

「すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、『先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか』。イエスは言われた、『なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい』。彼は言った、『どのいましめですか』。」

(マタイ19:16~18)

そこでイエスは、その青年に十戒の大部分を挙げると、彼は答えました。

「……『それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか』イエスは彼に言われた、『もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい』。この言葉を聞いて青年は悲しみながら立ち去った。たぐさんの資産を持っていたからである。」

(マタイ19:20-22)

この金持ちの青年が、「永遠の生命

を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」という質問をしたことに、心を留めなければなりません。そこで、イエスは彼に戒めを守りなさいと言われました。青年は小さい時からそれらのことを守ってきたことを告げました。マルコは次のように述べています。「イエスは彼に目をとめいつくしんで言われた。」(マルコ10:21) なんとすばらしいことでしょう。イエスは戒めを守る者をすべて愛されるのです。しかし、イエスは彼に完全な律法を教えようとして、青年の「ほかに何が足りないのでしょうか」という質問に答えて言われました。

「『もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そしてわたしに従ってきなさい』。この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たぐさんの資産を持っていたからである。」(マタイ19:21-22)

この中で、救い主は金持ちの青年に完全になるためには、時間をも含めてすべて彼が持っているものを喜んで犠牲にし、イエスに従うようにと教えられました。イエス・キリストの福音がこの末日に地上に回復されたからには私たち天父の子供たちが完全に到達するために必要なことをすべて与えられなければ、その福音は完全とはいえないでしょう。なぜなら、イエスは次のように教えておられます。

「あなたがたの天の父が完全であるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)

金持ちの青年が経験したことをよく考えてみると、次のような主の教えを容易に理解できます。

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方

を愛しあるいは一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」
(マタイ6:24)

「アベルは主に仕える方を選び、そして「主はアベルとその供え物とを顧みられた。」カインは富の方に心を動かした。彼の供え物は顧みられませんでした。金持ちの青年は、この世の富を手放すことができなかつたのです。こうして選択の権利を行使した青年は、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたから……」である。これは彼が神よりも富に仕える方を選びイエスが教えようとした完全な律法に生きることができなかつたことを示しています。

イエス・キリストの教会は、すべての人に選ぶ機会を与えています。イエスは次のようにはっきりと述べておられます。

「だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」
(マタイ6:31-33)

古代イスラエルにおける什分の一の律法

什分の一の律法は、イスラエルの予言者たちも守っていました。アブラハムはメルケゼデクに什分の一を支払いました。

「このメルケゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司であったが、王たちを撃破して帰るアブラハムを迎えて祝福し、それに対して、アブラハ

ムは彼にすべての物の什分の一を分け与えたのである。その名の意味は、第一に義の王、次にまたサレムの王、すなわち平和の王である。

そこで、族長のアブラハムが最もよいぶんどり品の什分の一を与えたのだから、この人がどんなにすぐれた人物であったかが、あなたがたにわかるであろう。」(ヘブル7:1-2, 4)

主はシナイ山において、イスラエルの子供たちに次の戒めを与えられました。

「地の什分の一は地の産物であれ、木の実であれ、すべて主のものであって、主に聖なる物である。」

(レビ27:30)

「あなたは毎年、畑に種をまいて獲るすべての産物の什分の一を必ず取り分けなければならない。そしてあなたの神、主の前、すなわち主がその名を置くために選ばれる場所で、穀物と、ぶどう酒と、油との什分の一と、牛、羊のういごを食べ、こうして常にあなたの神主を恐れることを学ばなければならない。」(申命14-22:23)

こうしてそれ以来、「常にあなたの神、主を恐れることを学ばなければならない」という目的が現在も続いているのです。

「その命令が伝わるやいなや、イスラエルの人々は穀物、酒、油、蜜ならびに畑のもろもろの産物の初物を多くささげ、またすべての物の什分の一をおびたたく携えて来た。」

(歴代31:5)

「あなたの財産と、すべての産物の初なりをもって主をあがめよ。」

(箴言3:9)

ヤコブは、主より与えられたすべての物の什分の一を払うことを約束しました。

「またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあな

たがくださるすべての物の什分の一をわたしは必ずあなたにささげます。」

(創世28:22)

レビの子孫は什分の一を受けるように任命されました。

「さて、レビの子のうちで祭司の務をしている者たちは、兄弟である民から、同じくアブラハムの子孫であるにもかかわらず、什分の一を取るように律法によって命じられている。」

(ヘブル7:5)

近代における什分の一の律法に対する反対

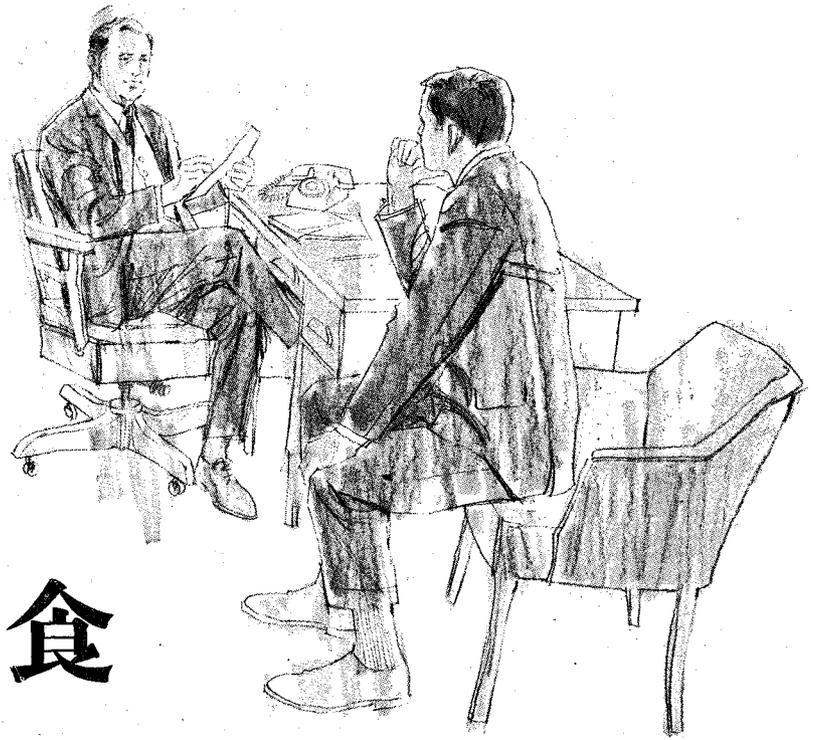
末日聖徒が、イエス・キリストの福音の一部として、最初に什分の一の律法を教えた時、他の教会の聖職者や世間一般の人々から、什分の一はキリストによって成就されたモーセの律法であり、新約聖書の教えではなかったという理由で反対を受けました。しかしイエスが人々に什分の一の支払いを怠ってはならないと教えたことはあきらかです。

「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。はっか、いのんど、クミンなどの薬味の什分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっとも重要な公平とあわれみと忠実とを見のがしている。」

(マタイ23:23, ルカ11:42も参照)

いまや反対はなくなり、多くの教会は什分の一の律法を適用しようとしてきました。しかし、そこにはいろいろな問題が生じています。

私たちは、什分の一の律法がイエス・キリストの福音であると知っています。すでに述べたように、主はこの時満ちたる神権時代に、その予言者を通してこの原則を、「彼らの守るべき永久的定法」として教会に与えられました。



断食

ジョン H. バンデンバーグ

運 動選手はよく、全力を出し切ったあとも再び力が盛り返してきて増々強さが加わると言います。くたくたになるまでプレーしつづけるバスケットボールの選手を例にとってみましょう。彼は試合の途中で速力を落とすこともできるし、またその時はどんなに辛くともなんとか最後までバストを尽してやり通すこともできます。ここで後者を選び、全力をふりしぼってやり通そうとする時、その選手の力は再び盛り返してくるのです。この盛り返すだけの力は、選手が全力を出し切るだけではなく、さらにそれにプラスした力をふりしぼらなければ得られるものではありません。

今あげた例は、断食という福音の原則に似ています。断食と祈りによって人は、自分自身の考えだけで得られるよりもっと大きな力と強さを得ます。断食と祈りによって、人は謙遜になり、責任を果たし、問題を解決するために必要な特別の力を主が与えたもうという信仰を得るのです。

このことは、救い主がはっきりと示しておられます。ある時、一人の父親がイエスの弟子たちのところへ来て、息子からおしの霊を追い出してくれるように頼みました。弟子たちはその願いをかなえてやることはできませんでした。そこで、その父親はイエスに近づいていきました。

「そこで人々は、その子をみもとに連れてきた。霊がイエスを見るや否や、その子をひきつけさせたので、子は地に倒れ、あわを吹きつけながらころげまわった。そこでイエスが父親に、『いつごろから、こんなになったのか』と尋ねられると、父親は答えた、『幼い時からです。霊がたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。し

かしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください』。イエスは彼に言われた、『もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。』その子の父親はすぐ叫んで言った。『信じます。不信仰なわたしを、お助けください』。

イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、『おしとつんぼの霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度とはいって来るな』。すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。その子は死人のようになったので、多くの人は、死んだのだと言った。しかしイエスが手を取って起こされるとその子は立ち上がった。家にはいられたとき、弟子たちはひそかにお尋ねした、『わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか。』するとイエスは言われた。『このたぐいは、断食と祈りによらなければ、どうしても追い出すことはできない。』(マルコ9:20-29)

祈りとともなう断食は、私たちが主の前にへりくだる時、より大きな力を与えてくれます。しかし、世の中には、この断食という福音の原則を誤って解釈している人々がいます。彼らにとって断食とは、空腹以外の何ものでもないのです。真の意味での断食には、喜びがともなはずです。主はこのことについて次のように言われました。「誠にこれは断食と祈りにして、言を換えて言えば喜びと祈りなり」。(教義と聖約59:14)

イザヤは少し言葉を変えて、同じようなことを述べています。「……見よ、あなたが断食の日には、おのが楽しみを

求め、……」(イザヤ58:3)

断食することによって、私たちは強められます。断食は、私たちの生活や考えを、主と一致させる機会であり、私たちが自分自身を訓練する機会でもあります。断食は、自由意志によって踏み行なう原則で、それは若い男女が食欲、肉欲を制することを学ぶ貴重な機会です。ウィリアム・ジョージ・ジョーダン¹は、私たちが、自己を制することを学ぶ過程について、彼の記事「すべてに優る自制」の中でこのように述べています。

「我々は自己訓練と精神訓練のために、不愉快に思う事柄や、いざという時すぐ必要な行動に移る助けとなる行ないを毎日実行しようではないか。そのような訓練は、ごく簡単なことから始めてよい。たとえば、非常におもしろい本を読んでいて、非常に感動し、どうしても続けて読みたいと思う時にしばらくその本をふせておくとか、どうしても電車で帰りたい時に、可能な限り家まで歩いて帰るとか、つき合にくい人に話しかけ、会話を楽しいものにするなどである。こうした日々の精神訓練は、人々の性質全体に非常にすばらしい効果をもたらすに違いない。人は小事に自制してはじめて大事に自制することができるようになるのである。」

イザヤは、断食のもつ他の目的に言及し、このように尋ねています。「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどこき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを祈るなどの事ではないか。また飢えた者にあなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの

家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。」(イザヤ58:6~7)

イザヤが「悪のなわをほどこき、くびきのひもを解き」また「すべてのくびきを祈る」と言っているのは、自分のことしか考えず利己的で、虚栄心やプライドが強く、その心をあまりにもこの世のことに向けているために、神を愛し隣人を愛せよという二つの大切な戒めをすっかり忘れている人々の悪をさしているように思われます。神を愛し、隣人を愛せよというこの原則は、断食の真の目的の中に含まれているのです。

また「……さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。」というイザヤの言葉は、文字通り理解できます。

断食献金の原則は、教会の若い人々に、貧しい人々を金銭的に助ける機会を提供しています。清く汚れない信心の精神で、皆さんは、恵まれない環境にある人々を助けることができるのです。

ヒーバー J. グラント大管長は、*エマーソンの次の言葉をよく引用しました。「我々が続けてやろうと思うものは容易に為すことができる。それは対象となるものの性質が変わるためではなく、それを為し遂げる我々の能力が増すためである。」

*ラルフ ウォルドー・エマーソン (1803~1882) アメリカの随筆家、哲学者、詩人。

やましい心をいやす

リチャード L. エバンズ

「良心の声はきわめてかすかで消されやすい。しかし、それはまた非常にはっきりしていて、聞きもらすことも困難である。」とスタール夫人は言った。またフランシス・ボウエンは言っている。「良心は、人間の心にある神の御声である……。」² ある意味で、それは内なる声であると同時に外からの何かである。ジョージ・クラブは良心を「人間のいと忠実なる友」³、と述べている。「良心は判事として罰する前に、友として我々に警告を与える」⁴ ところの友である。

ある人は良心を無視し、くじき、あたかも良心がないかのように振舞うことによって、それを支配できたと考えてきた。しかしかたくなに良心に逆うものは、こまやかな感受性を失い、自身と神と他人を受け入れる気持がなくなる。また持ち得たであろう平安をも失う。どうにかして、あたかも良心がないかのような生き方をする人々は、なんらかの代償を支払っている。

良心は神経のようなものである。もしも良心に無感覚であれば、それは我々に真理を教えるはくれない。真理を知らなければ、我々は困りはてる。人の内には生まれながらにして容易に変

えることのできない何かがある。良心にさからう故意の振舞いは内なる人格をいささか変えてしまう。憤いの律法は、他のあらゆる律法と同様に、良心に働きかける。教えや戒め、道徳や不道徳を变えるようなあらゆることを話しても、人は、神が与えたもうた内なる答えに反して行動することはできない。神からのささやきを無視し、知っている良いことを否定して、人は良心の苛責を感じずにはいられない。良心を無視すれば必ず自身をすさませる。良心に苦しむ前に、友としての良心に耳を傾けるがよい。やましい心をいやす唯一の方法、それはなさざるべきことをやめ、なすべきことをし始めることである。

1. スタール夫人 (1766—1817)、フランスの作家
2. フランシス・ボウエン (1811—1890)、アメリカの哲学者
3. ジョージ・クラブ、「良心の戦い」
4. レスジンスキー・スタニスラウス (1677—1766)、ポーランド国王



旧約聖書は、問題が多く混乱した世の中で道標を捜し求める若者に信仰と希望を与える。古代の指導者たちはこう叫ぶのである……

「主は、わたしを 正しい道に導かれる」

——詩篇23:3——

*ケネス W. ゴッドフリー

今日の若者が主として、関心を抱いている事柄は男女関係、大学の選択、認められること、就職、人望などである。(最近の世論調査の結果による)さらに、今日の若者には、前の世代ではほとんど見られなかった社会問題に取り組む姿や、深い関心を示す態度が見られる。彼らがしばしば説教台の上から聞く理想の世界は、実際目に見える世界からあまりにも大きくかけ離れている。しかしながら、何千年も

前の若者と同様今日の若者も、聖句を頼みとし、混乱や不安の中であって、そこから助けを得ることができる。

今日の若者が直面している問題の多くは、少なくともその一部は、旧約聖書の助けによって、解決される。なぜなら旧約聖書の中に描かれている人物は現実の問題をかかえ、実際にその問題の解決を試みた人々だからである。若者は聖書中の人々の犯した誤ちを見て同じ誤ちをくり返すことなく、彼らの成功を知って自らを高めることができる。このように人間の求めるものは、喜びであることを次第に悟るようになる。

より良い世界への関心

聖書の一番最初の章には、神による地球創造が記されている。社会問題にとりくみ、より良い世界を造りだすことに深い関心を抱いている人々は、創世記を注意深く読むならば、そのような自分たちの行動を神も認めておられることを知るに違いない。我々もアダムと同様地を従わせ、支配するように戒められているのである。(創世記1:28を参照)

天父は、偉大な自然界のみを創造されたので、はじめは音楽もなく、すぐれた文学も書かれず、橋もかけられず、芸術もなく、人間関係もなかった。人は、年令にかかわらず、神と共に、より美しく、素晴らしい世界の創造のわざにたずさわることができるのである。

人生の目的

牧者で、いちじく桑の木を作るテコアのアモスは、今日の若者と同様当時の社会悪について述べている。女性はぜいたくにふけり、怠惰な生活をし、夜遅くまで飲み食いしていた。彼女たちの不道德な行ないに、この古代の牧者は非常に深い関心を抱いたのである。不正に財産を得て富める者になった人々を嘆き、アモスはこう述べている。「あなたがたは正しい者をしえたげ、まいないを取り、門で貧しい者を退ける……。」(アモス5:12)自分の住む社会が悪化していくのを思いめぐらしている時、アモスは神に呼ばれ、墮落した人々の中に行って神の言葉を伝えるようにとのさしずを受けた。

*ケネス W. ゴッドフリー氏は、教会の宗教及び神学講座のアリゾナ、ニューメキシコ州地区主任である。ユタ州コーニッシュに生まれ、1967年に理学士号、理学修士号をユタ州立大学で、哲学博士号をブリガム・ヤング大学で受けた。同氏はこれまでも、数多くの教会雑誌に寄稿され、西部政治学協会の委員でもある。また1953~55年にかけて、南部諸州伝道部の仕事に従事した。現在は、テンプステキ部(アリゾナ州)で高等評議員をつとめ、オードリー・モントゴメリー夫人、四人の子供と共にテンプ第六ワード部に所属している。

その時までには「予言者でもなく予言者の子」でもなかったアモスは、へりくだってこの予言者としての召しを真剣に考えた。そして彼は、全イスラエルの民に向かって、雄々しく宣言したのである。

「善を求めよ、悪を求めな。」

そうすればあなたがたは生きることができる。……悪を憎み、善を愛し、門で公義を立てよ……………」(アモス 5:14, 15)

「公道を水のように、
正義をつきない川のように流れさせよ。」

(アモス 5:24)

結果は決して良いものではなかったが、少なくとも、この一人の牧者は神の助けを得て人々を悪から正義の道へ導こうと試みたものである。失敗したにもかかわらず、アモスは自分が神の前に正しかったことを知っており、彼の心には、少しのやましい気持ちもなかった。

彼は、人々がもし神に対する信仰と忠実を基にする人生の目的を知っているなら、たとえどんな混乱した時代であっても、必ず正しい名誉ある一生を送ることができることを我々に教えてくれる。

主の言葉を聞け

イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、サムエル、エライジャ、これはイスラエルの予言者たちのうちほんのわずかの名前をあげたにすぎないが、彼らも当時の政治、社会、宗教問題に徹底的に取り組んだ人々である。彼らの例を見ただけでも、今日の若者が自分たちの住む社会に深い関心を抱くことは間違っていないことがわかるであろう。たとえば、エレミヤは主から次のような戒めを与えられた。

「主の家の門に立ち、その所で、この言葉をのべて言え、主を拝むために、この門をはいるユダのすべての人よ、主の言葉を聞け。……偽りの言葉を頼みとしてはならない……もしあなたがたが、まことに、その道と行いを改めて、互に公正を行い、寄留の他国人と、みなしごと、やもめをしえたげることなく、罪のない人の血をこの所に流すことなく、また、ほかの神々に従って自ら害をまねくことをしないならばわたしはあなたがたを、……この地(パレスチナ)に永遠に住ませる。」(エレミヤ7:2, 4~7)

エジプトとバビロンの国を平穏な状態に戻すためにとられた愚かな外交政策や、邪悪な行ないの結果を人々に知らせようと、エレミヤはくびき(束縛の象徴)を負ってエルサレム

の町々を歩いた。その結果彼は捕えられてよごれた泥穴に閉じこめられたが、後に釈放され、捕虜をエジプトへ連れ出してそこで最期を遂げた。

二つのものの間

しかしながら、イスラエルの予言者たち皆が、当時の人々に拒まれていたわけではない。天与の勇気を持つエライジャは、邪悪なバアル(異教の神)の予言者四百人と、イスラエルの民に、カルメル山で会い、そこでこのように叫んだ。

「……『あなたがたはいつまで二つのものの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい』。民はひと言も彼に答えなかった。」(列王紀上18:21)

バアルの予言者たちは何度もバアルを呼んだが何の答えも得られなかった。そこでエライジャが主を呼び求めると、天から火が下って祭壇と供え物とを焼き尽したのである。エライジャの祈りに答えたもうた神を信ずるエライジャの強い信仰のおかげで、イスラエルの人々が二度と再びバアルを拝む恐れはなくなったのであった。そして人々も、もはやいつまでも二つのものの間に迷うこともなくなった。彼らはしばしば罪を犯したが、主が神であることを知ったのである。

イスラエルの予言者たちの生涯を学ぶことによって、我々は非常に大きな教訓を得ることができる。そして彼らの努力の結果が失敗に終わったものでも、我々は彼らの示した偉大な勇気を知ってその価値を認めずにはいられない。

若者への指示

若者たちはまた、他の人々を助け、人間社会の環境改善に役立つような職業を選ぶ時、旧約聖書に励まされるのである。教義と聖約の中で主は我々に、「天にも地の下(地質学)にも関わりあること、またすでに起りたること(歴史)、今有ること(時事)、近く必ず起らんとすること(予言)、……また国外にあること(外交問題)……」、さらに「……国々に就ける知識(地理学)」を得るべきであると言われている。

(教義と聖約88:79) 箴言の中だけでも、知恵、知識を求めよという勧告の言葉が9回もでてくる。一つの例として、「知恵ある者は誉を得る、しかし、愚かな者ははずかしめを得る」という聖句がある。(箴言3:35)

旧約聖書の中の神に召されて予言者となった人々は、それぞれ異なった職業を持っていた。アベルは牛を飼う者でありアブラハムは天文学に興味を持ち、モーセは生物学の知識を

持ち、モーセの義父ジェトロは、人間関係や人間の心理を見通す鋭い洞察力を持っていた。またエリシャは医学の知識を持ち、ダビデは将軍で、イザヤは政治学者であり政治顧問であり貴族であった。ギデオンは農夫であったし、ヨセフはエジプトにおいて政治上著名な人物となった。このような主の選ばれた予言者たちの多方面にわたる活動は、人がいかなる職業にあっても神を敬い仕えることができることを示しているように思われる。若者は、まず第一に地上の神の王国の建設に心を向けるべきであるが、彼らは最も興味ある職業を遊ぶという侵すことのできない権利を持っている。

道徳基盤と家族の名誉

エジプトでのヨセフのあの感動的な話の中には、道徳の心髄がみられる。遠く家を離れ、新しい習慣を持った見知らぬ人々の間にあって、落胆し、恐れさえ抱いたに違いない我々の偉大な先祖ヨセフは、彼の仕えた主人の妻に、純潔を汚す誘惑を受けた。ヨセフが父イスラエルそして天父と交わした聖約を知らずに、彼女は幾度となくヨセフを誘惑した。しかしそのような誘惑の言葉に、ヨセフはこう答えたのである。「どうしてわたしはこの大きな悪を行なって、神に罪を犯すことができましょう。」(創世39：9)

ポテパルのこの邪悪な妻は、若いヨセフを丸め込もうとしたが、ヨセフは自分自身を、父を、そして神を裏切ることをせず静かに牢獄へ引かれていったのである。現代の若者にとってこれはなんと力強い模範であろうか。

旧約聖書は若者に対して、両親を敬い、よく気づかい、彼らの言葉に耳を傾けそれに従うよう、また両親の名前を尊ぶようにと声を大にして叫んでいるように思われる。シナイ山で主は「汝の父母を敬え」と言われた。箴言の中に「愚かな者は父の教訓を軽んじる、戒めを守る者は賢い者である」(箴言15：5)さらに、「わが子よ、あなたの心をわたしに与え、あなたの目をわたしの道に注げ」(箴言23：26)とある。人はすべて神の子供であると同時に、アブラハム、イサク、ヤコブの子供であるという考えが何度も繰り返述べられている。人は家名に誉れ、威厳をもたらし、その名を神の目にかなうものとする神聖な責任を持っている。旧約聖書に出てくる子供たちは、親の教訓を軽んじた結果待ち受けているものは、悲しみ、悔恨、苦悩であることを、また逆に両親の勧告、教えに従う時は非常に価値ある生活を送ることができることを知った。

罪を犯したために感じる疎外感やダビデ王のある真心から

の祈りによって幾分緩和されるに違いない。「神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのものがぬぐい去ってください。わたしの不義をことごとく洗い去り、わたしの罪からわたしを清めてください。」(詩篇51：1, 2) これを読むと、真の意味での神の許しの精神を感じとることができる。

信仰によって生きよ

旧約聖書にはまた、現代の多くの宗教問題を部分的にはあるが解決できる方法がのっている。神の存在に疑いを抱く若者たちは、モーセの前に燃えるしばの中や、夜中サムエルに聞えた声、エライジャに聞えた静かな声、ヨブの前に吹きあれたつむじ風に、そしてまた深く悔いたダビデ王の言葉に神を見出すに違いない。いったん神を見出した若者は、若いサムエルのようにこう叫ぶことであろう。「しもべは聞きませす主よお話しください。」(サムエル記上3：9)

神の存在について、聖書のいたるところで証しされている。創世記の最初の言葉にもそれを見ることができる。「はじめに神は……」。

若い人々は、善良な人々にも、悲しみ、苦痛、悲惨、そして他の数々の苦難がふりかかるとを見て理解に苦しみ、ヨブのように泣き叫ぶのである。悲惨、苦痛、悲しみ、これらはいつも悪行の結果もたらされるものだろうか。ヨブ記には、善良な人々も不幸に見舞われ、そのような不幸は人間の善悪から来るものではないと記されている。そうした状態にどう対処するかによって、災難は、その人のためにもなり、また耐えられないものにもなるのである。

苦難や肉体上の苦痛を受け、あるいは善良な人々が亡くなったり、かたわになつたりするのを見て、悲しみに打ちずみ、身も心もくじかれた状態になる時、若者は理解に苦しみ泣き叫ぶであろう。しかし彼らはヨブ記の中の、つむじ風の中からヨブに語られた主の言葉に答えを見出すに違いない。そして「信仰を持ちなさい」という主の言葉を聞くのである。

正しい人々が苦しみ、弱くなっていく一方、邪悪な人々、国々が繁栄していくのを不思議に思う若者は、ハバククに問うことができよう。ハバククは、主の選びの民イスラエル人がしだいに弱くなっていくのに、なぜ「たけく、激しい国民」のカルデヤ人が強くなっていくかを主に尋ねた。彼らがそのような質問に答えを得られない時、ハバククと同様「義

人はその信仰によって生きる」ことを思い起こすであろう。

(ハバクク2:4)

愛はすべてにまさる

ホセアは、愛はすべてにまさると教えている。誤ちは人生に悲劇と悲嘆をもたらし、天父を悲しませるものであるが、天父の尽きない愛によって、我々は生命にまさる聖なる約束を受けているのである。

主はホセアを通しイスラエルの人々に、彼らのために主ご自身がかつてなされた偉大な事柄や、彼らと交わした約束について語られた。主はいかにして彼らをエジプトから導き出し、無事に荒野を通過して選ばれる地へ行くのを見とどけたもうたかを人々に思い起こさせた。選ばれた地へ導かれて後、人々はしだいに主なる神を忘れていった。主は、人々の犯した悲しむべき罪をあげ、彼らの悪行を嘆いておられる。「わたしはイスラエルの幼い時、これを受した。……わたしはあわれみの綱、すなわち愛のひもで彼らを導いた」。(ホセア11:1, 4)

ほとんど嘆願するかのように、イスラエルはみずからを破滅に至らせたが、「だれがあなたを助けることができよう」と、主は叫んでおられる。(ホセア13:9) しかし、ついには喜びの声をもって、こう言われた。「わたしは彼らを陰府の力からあがない、彼らを死からあがなう。……わたしは彼らのそむきをいやし、喜んでこれを愛する。わたしはイスラエルに対して露のようになる。彼はゆりのように咲き、ポプラのように根を張る。」(ホセア13:14, 14:5, 4 欽定訳)

これは、使徒パウロのあの美しい言葉の序となるものである。「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のもも将来のもも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことではないのである」(ローマ8:38-39)

神の愛は無条件にすべての人々に与えられるということ、また、神にそむく行ないや罪を犯し、世の中がいかなる状態になろうとも、我々は神にたちかえることにより望みを得、救いの力を持つ神の偉大な愛を受けられるということ、おそらくこれこそ旧約聖書が若い人々へ送る決定的なメッセージであろう。一生の仕事を決する時、人望に関して、男女関係に関して問題が起きた時、そして生活を暗いものにする現代社会に疑問を抱く時、旧約聖書の中にその答えを求めようではないか。

わたしがきたのは

羊に命を

得させるためである

リード H. ブラッドフォード



最近私は、人生で成功し、かなりの社会的地位を得ている人と話す機会がありました。彼は、青年時代、自分の望む目標をじっくり考え、その考えたと同じ位の時間を使って、目標を達成する方法について考えたそうです。「私はこうして自分の持つ才能と力を最大限に発揮しえた」と彼は語っています。

多くの人は、意識して目標を決めていません。まるで「風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている」。(ヤコブ1:6) つまり、多くの人は、自分の人生の目標に向っているかどうかを考えていません。身近かな人々の行ないを見てそれをとり入れているのです。

救い主はこう言っておられます。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ10:10) もしこの言葉の深い意味を理解していたら、私たちは主がたまわるこの「豊かな命」を得ようとする刺激を与えられ、動機づけられるでしょう。確かに、知的面でもそのような命を得たいという望みを持つでしょう。しかし、これ以上に、情緒的、霊的資質により私たちはこの目標にあこがれを抱き、時には、その資質が、知力よりも実質的にまた力強く人生に影響を及ぼすことがあるのです。

豊かな命

「豊かな命」とは何でしょうか。

「見よ。これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39)

これはキリストのたまわる豊かな命というものが限らない広さと深みを持っていることを表わしています。この言葉の意味は深遠です。私たちが永遠に生きるとすれば、永遠の目標を立てなければなりません。人生のいかなる場合にも、それが後にどんな影響を及ぼすかを常に意識する必要があります。これは、永遠のものを追求するためには、一時的な満足をかまんしなければならないということです。

正直よりも物質的な満足に重きを置く人がいます。けれども、「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したならなんの得になるのか」(マタイ16:26)。私たちは、人生において優先すべきものを確立し、何が自分にとって最大の喜びと満足とをもたらすかを決めなければなりません。このことが救い主の生涯のある出来事によく表わされています。

イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受け

るために、何をしたらよいでしょうか」。イエスは言われた、「……いましめはあなたの知っているとおりでである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』」。すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。」すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。それから、イエスは見まわして、弟子たちに言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう」。(マルコ10:17~23)

誤った選択は目標を挫折させる

お金それ自体は悪ではありません。それは多くの満足を得るための手段にもなります。けれどもお金や財産を重視しすぎた結果、それが目的となってしまうたら、私たちは真の目標であるべきものの達成に時間や努力を費せなくなります。

富を求めずして知恵を求めよ。さらば見よ、神の奥義は開かれ、それより汝ら富める者とせらるべし。(教義と聖約6:7)

救い主は賢明な選択をなした最高の模範です。救い主はルシファーの誘惑をしりぞけられました。それはその誘惑が主の神性な人格または神に近づこうと努力されていた人格を高めるのでなくせばめることを知っておられたからでした。

ギリシャ人は無知を最大の罪に数えていました。なぜなら無知は選択の範囲を狭めるからです。キリストの教えられた原則を理解し、実行すれば、正しい力が発揮されます。なぜなら、この方法により私たちの選択の範囲は倍増するからです。

私たちはすべて天父なる神の子供です。ですから、私たちは非常な可能性を秘めています。もし、最善の方法を知り、それによって可能性をひろげるならば、他人に分ち与えることのできる何かを持つことができるはずで

す。われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて……(教義と聖約58:27, 28)

豊かな愛—豊かな命

救い主は、霊的、知的、情緒的、社会的に最も大きく成長できる方法をお教えになりました。イエスがエルサレムに入られた時、周りに集まった人々にこう話されました。

そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。(マタイ22:35~39)

この偉大な原則は、だれにでもあてはまります。決してその人が自分に何かをしてくれたからというのではなく、ただ愛のために私たちが進んで他人と分ち合うなら、すべての人が互いに与え、受けるという神聖な状態を築くための貢献をしていることとなります。私たちは、他人と一緒にの方が単独するよりも、はるかに多くのことを達成できます。1人と1人で2人以上の、2人と2人で4人以上の力が発揮できるというのはその一例です。このように互いに愛し合うことにより、天父が私たちに示したもう愛をさらによく理解することができます。

神よりの賜

罪よりの贖いは、天父と御子の大きい愛を表わしています。

わたしたちは人間のあかしを受け入れるが、しかし、神のあかしはさらにまきっている。神のあかしというのは、すなわち、御子について立てられたあかしである。(Iヨハネ5:9)

キリストは私たちが彼のようになる機会にあずかることができるよう進んで苦難と苦痛を耐え忍ばれました。

されど、われ誠にまことに汝らに告ぐ、われを受け入る者にはわれ悉く神の子となる能力を与えん。(教義と聖約11:30)

天父と御子が私たちに与えたもう賜の中には、神権の権能があります。これは、悔改めにより、「再び生れる」機会を与えてくれる権能です。悔改めたアルマはこの再生の意味を理解していました。

まことにその時から今になるまで、私は人々を悔い改めさせ、私と同じ喜びを感じさせるために、またこれらの人も神

によって生れ聖霊に満されるようにたえずはげんで働いた。

(アルマ36:24)

人生でそのような再生を知った人々は、徳、寛容、忍耐、兄弟愛、謙遜、勤勉、愛と同様「主イエス・キリストにおける信仰」をあらわします。自分の罪を悔改め、他人をも許すのです。

キリストの示したもうた、もう一つの大きな愛は、私たちが目標を達成するための原則を明らかにされたことです。次のように言っておられます。

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるだろう。それは真理の御霊である。……もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。」(ヨハネ14:15~17, 23)

報いの賜

キリストの言われた「豊かな命」の賜は、平安、進歩、喜びをもたらします。私たちがたまわった主に感謝せねばならない賜のうち、特に大切なものが二つあります。一つは、私たちが人生を徳高きものにし、清め、「彼についてこの望みをいただいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする」(Iヨハネ3:3)ことです。

第二はイエスが言われたように、「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ5:16)ということです。

私たちが「教える機会」を求めていれば、「すべての人に光」を与え、キリストの「豊かな命」を理解し、それを求めて生活するよう、他の人々に、教え、導く機会が必ずあるはずで

す。そうすれば、私たちはアルマのように言うことができるでしょう。

……神は私を終りの日になって高く挙げ、自分と一しょに、栄光の中に住まわせて下さる。これを私は確に知っている。

(アルマ36:28)

命は私たちにとって本当に「豊か」になるでしょう。時において、愛の深さにおいて、果てしない進歩において、永遠に豊かなものとなるでしょう。

あけましておめでとうございます

日本伝道部長 ウォルター R. ビルス



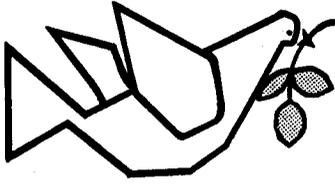
一年がなんと速く終わったことでしょう。過ぎし一年に受けた祝福をかえりみてみましょう。私たちの日本伝道部はまことに祝福されました。会員の皆様の御協力のお蔭で、私たちのプログラムは成功をおさめました。皆様が多数の新会員をよく迎へ入れて下さいましたことを心より感謝いたします。

ビルス姉妹と私は、皆様の目覚ましい発展と成長ぶりを見せていただきました。補助組織の指導者は本当に素晴らしく、これはひとえに組織を成功させようとする会員の皆様の支持のお蔭です。やがて私たちは日本の地に起こる数々の素晴らしい業を目の当りにすることでしょう。益々多くの美しい礼拝堂が日本の各地に建ちます。また、この地に私たち自身の神殿の建つ日が早く来ることを祈って止みません。人々は、私たちの時代に日本の指導者の故に教会を

仰ぎ見るようになります。皆様のような素晴らしい会員がおられることを感謝いたします。主は「汝ら一つとならざれば、我がものにあらず」と言われました。私たちは一つです！イエス・キリストの福音は皮膚の色、人種、信条にかかわりなくすべての人のものです。福音は生活の唯一まことの道、すなわち天の王国、永遠の生命に至る唯一の門なのです。

天父と共に住むための必要条件は簡単です。それは神の戒めを守り、キリストがおっしゃった「我を愛するなら、我が誠命を守れ」という言葉に従って生きることです。

皆様が永遠の生命を得るために努力され、この地上に神の王国を広めるために働きを続けられますように。



街ゆく人々へ 家庭の夕べの本 贈る

クリスマスおめでとうと記された美しいカードとともに約 7,800 冊の「家庭の夕べ」が、贈られました。

会員・宣教師が、数冊の家庭の夕べの本を買い、ご近所、友人に、クリスマスプレゼントとして贈りました。また街かどでクリスマス・キャロルをしながら、街ゆく人々へ、この本をプレゼントしました。

マッケイ大管長は、「家庭の夕べ」のはしがきで、次のようになっています。

「現代に起こるさまざまな出来事を通して、私たちは、これまで以上にお互いが親しく結びあう家

庭、敬けんな祈りに満ち、律法を敬う家庭の中で子供にまことの原則を教えることが緊急に必要なことを、日毎に知ることができます。両親が愛と忍耐と理解の心をもって子供たちを集め、真理と正義のうちに自らの言葉と模範によって正しい原則を教えるよう、私たちは再度心よりお勧めいたします。」

写真 松本家



日本伝道部

支部・伝道所住所録

伝道本部

東京都港区南麻布5の8の10
〒106 TEL03-442-7438

北海道地方部

旭川支部 旭川市6条西1丁目
〒070 TEL0169-22-1545

札幌支部 札幌市南20条西16丁目
〒060 TEL0122-56-7175

室蘭支部 室蘭市幸町12の9
〒051 TEL0143-2-7054

小樽支部 小樽市富岡町1の5の23
〒047 TEL0134-2-8224

苫小牧伝道所
北海道苫小牧市緑町43の1 佐藤様方

岩見沢伝道所
北海道岩見沢市美園町64の3 菅野様方

函館伝道所
函館市新川町7の11

東北地方部

仙台支部 仙台市光禅寺通り28
〒980 TEL0222-25-0897

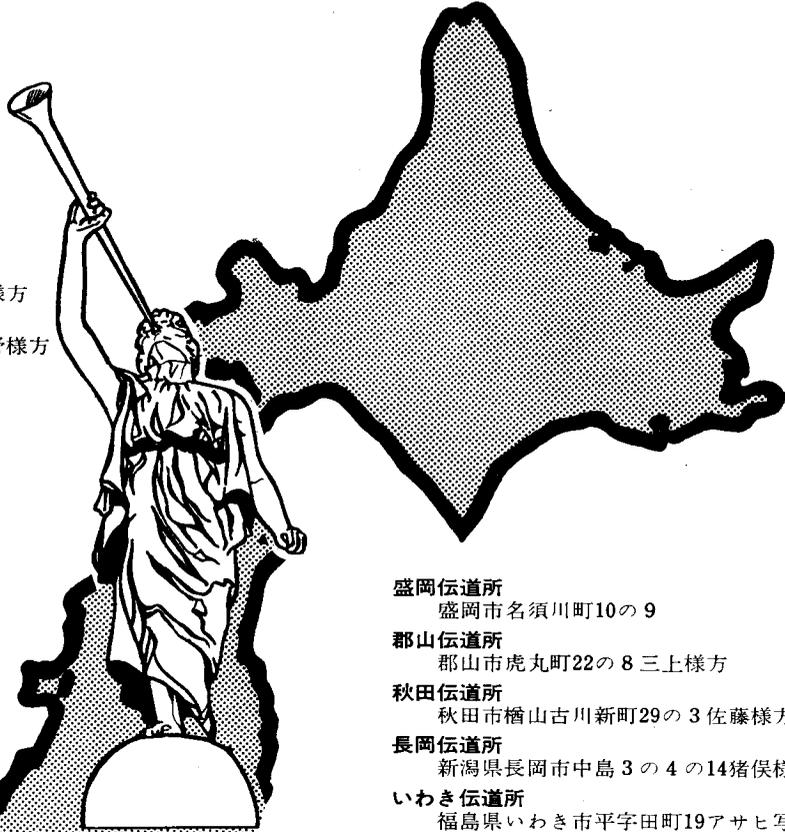
山形支部 山形市七日町4の12の28
〒990 TEL02362-3-3380

福島支部 福島市渡利字小久保8の7
〒960 TEL02452-23-5313

新潟支部 新潟市明石2の2の5
〒950 TEL0252-47-7712

青森伝道所
青森市沖館千苧180の18石山様方

八戸伝道所
八戸市大字糖塚字野場先8の13



盛岡伝道所
盛岡市名須川町10の9

郡山伝道所
郡山市虎丸町22の8 三上様方

秋田伝道所
秋田市榎山古川新町29の3 佐藤様方

長岡伝道所
新潟県長岡市中島3の4の14猪俣様方

いわき伝道所
福島県いわき市平字田町19アサヒ写真館内

東中央地方部

群馬支部 高崎市並榎町275
〒370 TEL0273-22-7121

東京中央支部 東京都港区北青山3の6の4
〒107 TEL03-400-3307

東京東支部 東京都江戸川区西小岩5の8の6
〒133 TEL03-658-7310

東京西支部 武蔵野市吉祥寺東町1の7の7
〒180 TEL0422-22-6764

東京南支部 東京都大田区南千束町2の25の11
〒145 TEL03-729-6311

東京北支部 東京都中野区江原町1の8の14
〒165 TEL03-953-8244

横浜支部 横浜市港北区篠原町29
〒222 TEL045-401-8772

松本支部 松本市開智1の1の6
〒390 TEL02634-3-8093

甲府支部 甲府市中央3丁目12の2
〒400 TEL0552-33-2409

藤沢伝道所
神奈川県藤沢市鵠沼藤ヶ谷3の12の6 友安様方

前橋伝道所
前橋市若宮町1の3の3

静岡伝道所
静岡市安東柳町27

浜松伝道所
浜松市菅原町16の12

長野伝道所
長野市権堂町2283

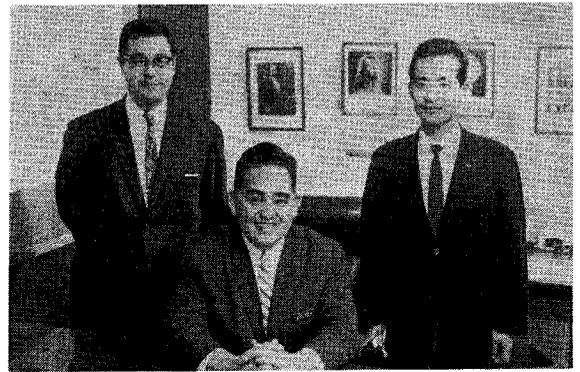
千葉伝道所
千葉市猪鼻町2の2の8 沼倉様方

宇都宮伝道所
栃木県宇都宮市下岡本町1924

誠に主は言う。汝らこの世に住む者よ。これらのこと汝らの中に知られんため、永遠の福音を持ち天の唯中を過りて飛ぶわが天の使を遣わせり。この使はすでにある者たちに現われ人間に福音を付したり。またこの使は、この世に住む多くの者に現わるべし。而して、この福音はあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、およびあらゆる世の人々に宣べ伝えられん。神の僕らは出で行き声高く言うべし。神を畏れて榮を神に帰せよ。神の審判の時来たればなり。

日本沖繩伝道部〈北から南から〉新年のごあいさつ

1970年 あけましておめでとうございます。
 多くの祝福に満ちた1969年も去り、この新年に再び心新たに主の御業に励もうとしています。
 この年、春風に乗って、日本の地に神様の祝福が万国博を通してもたらされるのです。
 私達は心を一つにして、この祝福を受けるべく、準備します。
 そのような新たな期待と勇気にあけるこの新年。
 支部の力を結集して、出来るだけ、たくさんの方々を私達の教会にお招きし、この真の福音を知っていただく。
 この新たな決意でこの一年、真心からの暖かい手をさしのべて、“一人の会員が一人の新しい方を”をモットーに頑張ります。
 日本沖繩伝道部の伝道部長会、地方部長会、支部長会を写真でご紹介します。



伝道部長会

沖繩地方部長会



九州地方部長会

地方部長
吉沢敏郎

近畿地方部長会

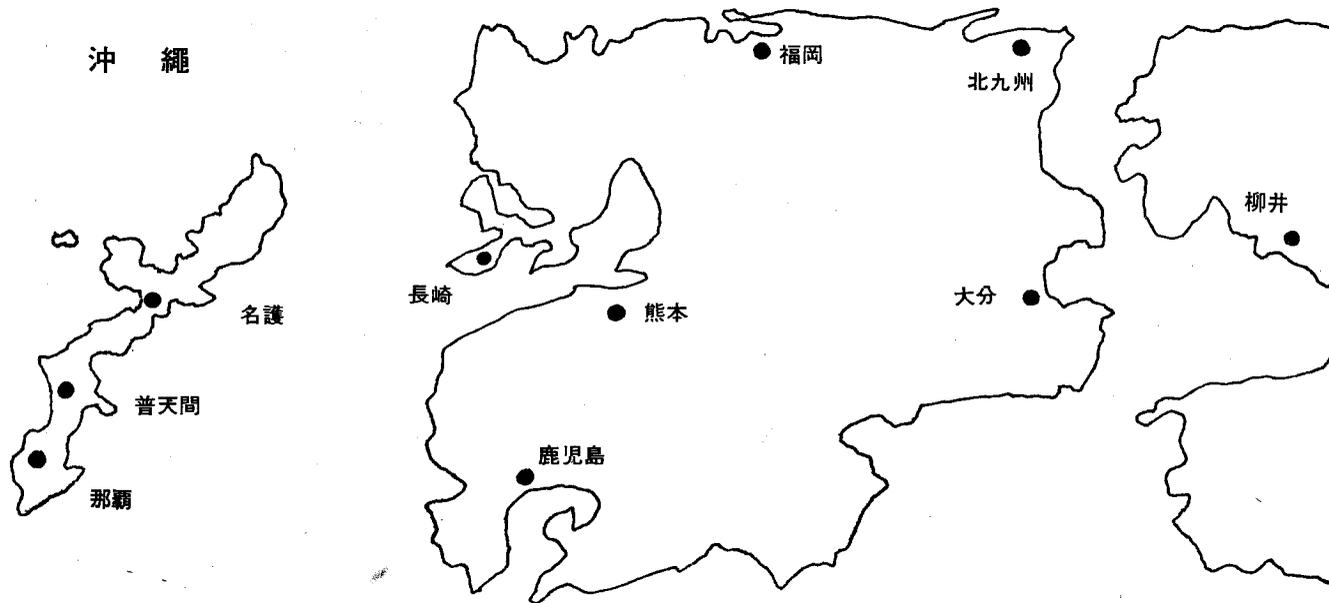
地方部長
安芸 宏

中部地方部長会



金沢支部

支部長
田中 徹



小松支部



名古屋支部

支部長
中村武史

岐阜支部



岡崎支部

支部長
板倉秀樹

春日井支部



高知支部



京都支部



神戸支部



柳井支部

支部長
林 忠夫

松山支部



高槻支部



姫路支部



福岡支部

支部長
西俣 康

高松支部



岡町支部



岡山支部



北九州支部



阿倍野支部



尼崎支部



松江支部



長崎支部



堺支部



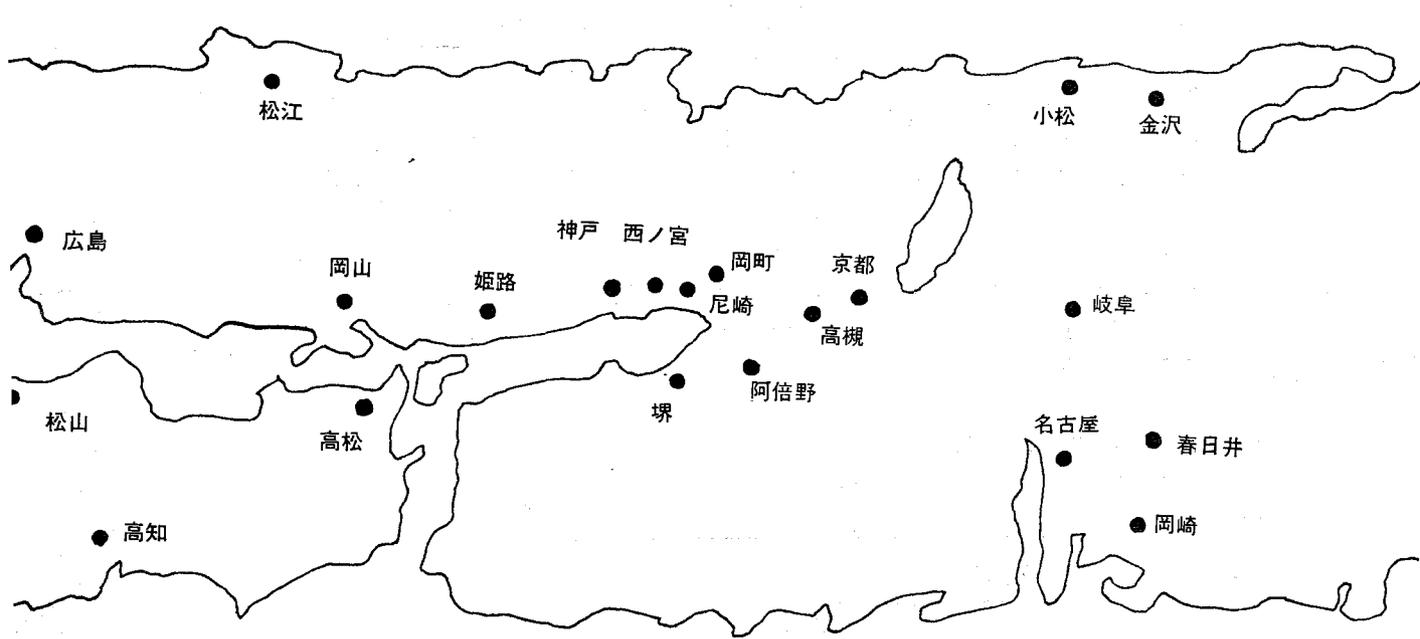
西ノ宮支部



広島支部



大分支部



熊本支部



鹿児島支部



那覇支部



普天間支部



名護支部

支部長
屋富祖昭

清い両親であれ

リチャード L. エバンズ

「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」¹これこそ、人間の記憶をはるかにさかのぼる古えに、神の与えたもうた勧告である。この意味の敬いとは、愛し、慈しみ、尊敬し、信頼し、打ち明け、好意を示し、有益な、正しく徳高き生活をするなど、多くの事柄をあらわしていた。敬うということは、両親が学んだ教訓を学び、両親がなした間違いを避けることとさえ言える。

両親を敬う人々が、深く永続する満足をもって、人生の幸福と平安とを得たという証拠がある。そのすべては深く考えるべきものである。まだ若い人々、未婚の人々、小さな家族のある人々、子供に恵まれようとしている人々よ、エルドン・タナー副管長の次の一つの文章にしばし目を向けてみよう。

「最も敬うべき両親は、子供たちの両親となるはずの自分たち自身である。その子供たちは、最もよい両親、すなわちあなたがたという清い両親に恵まれる権利があるのだ。」²両親となる自分自身を敬うとは…！結婚に際して選ぶ伴侶の大切さを考えよう。あなたと理想を共にする人と結ばれるなら、子供たちに分裂を招くことがない。子供たちのために学び、働き、備えることの大切さを考えよう。子供たちのために、徳高く、清く、親切で、敬虔な両親となることを考えよう。愛と理解、責任と尊敬に満ちた家庭を子供たちに与え、子供たちを教え、大切にし、生活の細かな点にいたるまで導くことをおろそかにしない両親となろう。結婚の際になすべき決意をいまだしていない、若い父母であるあなたがたに、ぜひとも思い出していただきたい。「最も敬うべき両親は、子供たちの両親となるはずの自分たち自身である。その子供たちは、最もよい両親すなわちあなたがたという清い両親に恵まれる権利があるのだ。」

1 出エジプト記20：12

2 N.エルドン・タナー副管長、1969年4月19日付「チャーチ・ニュース」より

聖徒の道

1970年1月20日発行

振替口座 東京16226番

発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話(442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間1,000円(外国4ドル50セント)

電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ